

# かながわ人づくりフォーラム ワークショップ等実施結果報告書



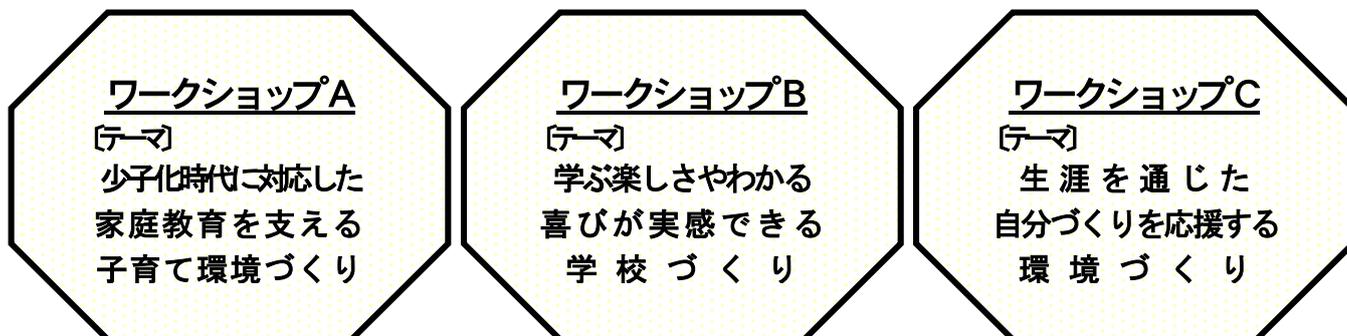
平成 18 年 8 月 26 日

かながわ人づくりフォーラム運営推進委員会

## ワークショップ等の実施結果の概要

1 趣 旨 かながわにおける教育課題の解決に向けた取組みの方向性について、幅広い県民論議を行い、次代を担う人づくりの視点を柱としたかながわの教育ビジョンづくりに資する。

2 テーマ



3 日程等

日 時	会 場	主なプログラム	参加者数 (人)
2月11日 (土) 9:30~11:30	自治総合研究センター (横浜市栄区小菅ヶ谷)	○全体会 (オリエンテーション) ○テーマ別ワークショップA・B・C	106
3月11日 (土) 9:30~12:30	県立青少年センター (横浜市西区紅葉坂)	<b>教育イベント (ワークショップC)</b> <b>劇作家横内謙介さんによる体験的演劇ワークショップ</b> <b>『発見! 私のチカラ・新たなステージ』</b>	85
3月19日 (日) 13:30~16:50	自治総合研究センター (横浜市栄区小菅ヶ谷)	○テーマ別ワークショップA・B・C	80
		○AとB共通テーマによる合同ワークショップ 『小1プロブレム』を考える!』	51
4月22日 (土) 9:30~12:40	県立総合教育センター (藤沢市善行)	○テーマ別ワークショップA・C	65
		○AとC共通テーマによる合同ワークショップ 『家庭の教育力の再生と新たな地域づくりを考える!』	71
5月3日 (水) 10:00~15:30	一色海岸 県立近代美術館葉山館 (葉山町一色)	<b>教育イベント (ワークショップB)</b> <b>海洋冒険家 荒木汰久治さんによる</b> <b>『海人丸 移動環境教室』</b>	110
		○テーマ別ワークショップB	41
5月27日 (土) 9:30~15:00	県立体育センター (藤沢市善行)	<b>教育イベント (ワークショップA)</b> <b>佐藤弘道さんによる</b> <b>『弘道おにいさんと親子体操で子育てを考えよう』</b>	620
		○テーマ別ワークショップA	35
6月3日 (土) 9:30~12:50	県立総合教育センター (藤沢市善行)	○テーマ別ワークショップA・B・C	99
		○BとC共通テーマによる合同ワークショップ 『子どもの学びと生き方・進路と一体化に向けたキャリア教育を考える!』	74
6月17日 (土) 13:30~16:30	県立小田原高校 (小田原市城山)	<b>教育イベント (ワークショップB)</b> <b>劇作家横内謙介さんによる体験的演劇ワークショップ</b> <b>『かかわる楽しさ、伝え合う心』</b> <b>高校生と教育委員との教育論議</b> <b>『かながわの教育を考える』</b>	147
7月1日 (土) 13:30~16:30	波止場会館 (横浜市中区海岸通)	○テーマ別ワークショップA・B・C ○全体会 (まとめ)	104
合計参加者数 (延べ)			1, 688

## 目 次

I	ワークショップ等の実施結果報告	1
	ワークショップA	1
	ワークショップB	9
	ワークショップC	17
II	参加者のアンケート記録	24
III	かながわの教育ビジョンづくりに関する報道実績等	44

# I ワークショップ等の実施結果報告

## ワークショップA実施結果報告

### 1 テーマ

#### 「少子化時代に対応した家庭教育を支える子育て環境づくり」

### 2 現状と課題の整理

- 親が子どもとふれあい、コミュニケーションをとる機会の希薄化など、親子のかかわり、つながりの低下
- 親の就労状況や地域などでの人とのつながりの希薄化から、子育てに悩み、孤立する親が増えている傾向
- 親・家庭の価値観の多様化などを背景に、家庭での子育て・教育の二極化が進行
- 親自身の子育て、家庭教育に対する考え方、信念、ポリシーなどの希薄化
- 発達に課題がある子育て支援や保育・幼児教育などの環境整備の問題
- 愛情やしつけ、公共のマナー、基本的習慣など家庭での子育て、教育の役割が軽視され、意識が低下
- 親と子が共に体験や実践を通して学ぶ機会の減少
- 心おきなく子どもの相談をできる場が探しにくい状況
- 子育てをめぐる安全・安心が脅かされている実態

### 3 議論のポイント

#### 【第1回実施概要】

##### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年2月11日（土）9:30～11:30

(2) 開催場所：神奈川県自治総合研究センター

○課題別ワークショップ [10:00～11:30 103研修室 参加人数25名]

3つのワークショップごとに各会場に分かれ、「少子化時代に対応した家庭教育を支える子育て環境づくり」に基づく課題を洗い出し、今後の取組みの方向性などについて協議が行われた。具体的には、「子育て環境で良くなっている点、悪くなっている点」をテーマにグループごとに、課題の洗い出しを行った。

##### 【主な意見】

「良くなっている点」

- ・男性（父親）にとって、子育てに参加しやすい環境になってきた。
- ・経済的には良くなったので、子どもを育てやすくなった。
- ・子どもを育てる上で、情報関係がよくなった。
- ・子どもを育てる上で、施設面が良くなった。  
(但し、限られた人しか利用していない)
- ・子育てのサービスの多様化
- ・家事負担の軽減



「悪くなっている点」

- ・共稼ぎで、子どもと接する時間がない。

ただし、状況はまだ致命的ではないので、何か対策を講じれば良くなっていくのではないかと。

- ・情報化・コミュニケーション不足
- ・経済面二極化（子育て世代は、収入が減少）
- ・基本的な生活習慣・しつけ
- ・地域の役割希薄化→相談機関など

これらを踏まえ、「家庭の役割が大事」「家庭が子どもをたっぷり愛することのできる環境づくりが必要」「親は、地域も見ておく（理解しておく）」が課題ではないかと整理した。



## 【第2回実施概要】

### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年3月19日（日） 13:30～16:50

(2) 開催場所：神奈川県自治総合研究センター

○課題別ワークショップ [13:30～15:00 103研修室 参加人数17名]

今回の課題設定については「家庭の役割」をテーマに議論を行うこととし、前回の意見を踏まえると、家庭の役割は「生活習慣やしつけ」、「人とのつきあい」、「社会のルールとマナー」が考えられるので、「乳幼児期」「小学生」「中・高校生」と子どもの成長に沿った課題と、それまでにやるべき内容を挙げることにした。

### 【主な意見】

「社会のルールとマナー」

- ・幼児期において、挨拶を身に付けさせる。
- ・小学生において、時間や決まりをきちんと守らせる。
- ・中高生において、公正なものの方や考え方を大切にできる。

「基本的な生活習慣」

- ・幼児期において、早寝、早起き、三食の食事の徹底させる。
- ・小学生において、生活リズムを作らせる。
- ・中高生において、自分で生活リズムをコントロールできるようになる。

「人とのかわり方」

- ・幼児期において、親は、子どもに絶対的な安心感を与え、三歳までに素直な子を育てる。
- ・小学生において、人の話をきちんと聞くことができるようにさせる。
- ・中高生において、思いやりを持つことができるようになる。

## 【第3回実施概要】

### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年4月22日（土）9:30～12:40

(2) 開催場所：神奈川県立総合教育センター

○A・C合同ワークショップ [9:35～11:00 3A研修室 参加人数71名]

「家庭の教育力の再生と新たな地域づくりを考える！」として、次のような課題と問題の提起が行われ、それを踏まえて、会場の参加者で協議した。

<金子佳代子運営推進委員の課題提起>

- ・育児や子どもの教育に不安を持つ親や孤立化する家庭に対して、あなたならば地域の中で、どのようなサポートや具体的な取り組みができると考えるか。

<中川洋太ワークショップC公募委員の問題提起>

- ・地域で子どもを育てる環境づくりに向けて、どのような『しくみ』、『人材』、『機会』などが具体的に考えられるか。



### 〔主な意見〕

- ・お手本になる先輩が周りにいなくなっている状況から、地域全体で子育てをサポートできるような仕組みが必要である。
- ・地域の中で、みんながあいさつできる環境になる。
- ・みんなで子育てしたくなるような気持ちになる環境づくりが必要である。
- ・小学校、中学校などが持っている活動のノウハウが、地域に還元できるように、サポートセンター的なものを設けたらどうか。
- ・地域に仲間づくりができる場が必要である。
- ・大人が子どものモデルになっていない。
- ・子育てに関するいろいろな取組みをまちぐるみでムーブメントしてもらいたい。

○課題別ワークショップ [11:10～12:40 3C研修室 参加人数32名]

幼児、小学校、中学校・高校における大切にしたいキーポイントについて、グループ協議を行い、発達段階ごとの子育ての姿と家庭や、地域などの子育てへのコミットの仕方などについて議論を深めた。

### 〔主な意見〕

「幼児」

- ・家庭は、生活のリズムをしっかり身につけさせ、元気に育てる。
- ・子どもも参加できる遊び会など。→地域の人たちとの人間関係を親子ともに築く。
- ・親への教育、支援は、子どもにつながっていく。
- ・愛される実感：安心感、信頼感、いっしょに居ることを大切にする、大事にしている。
- ・親が子どもにゆとりを持って関われる時間が確保される。

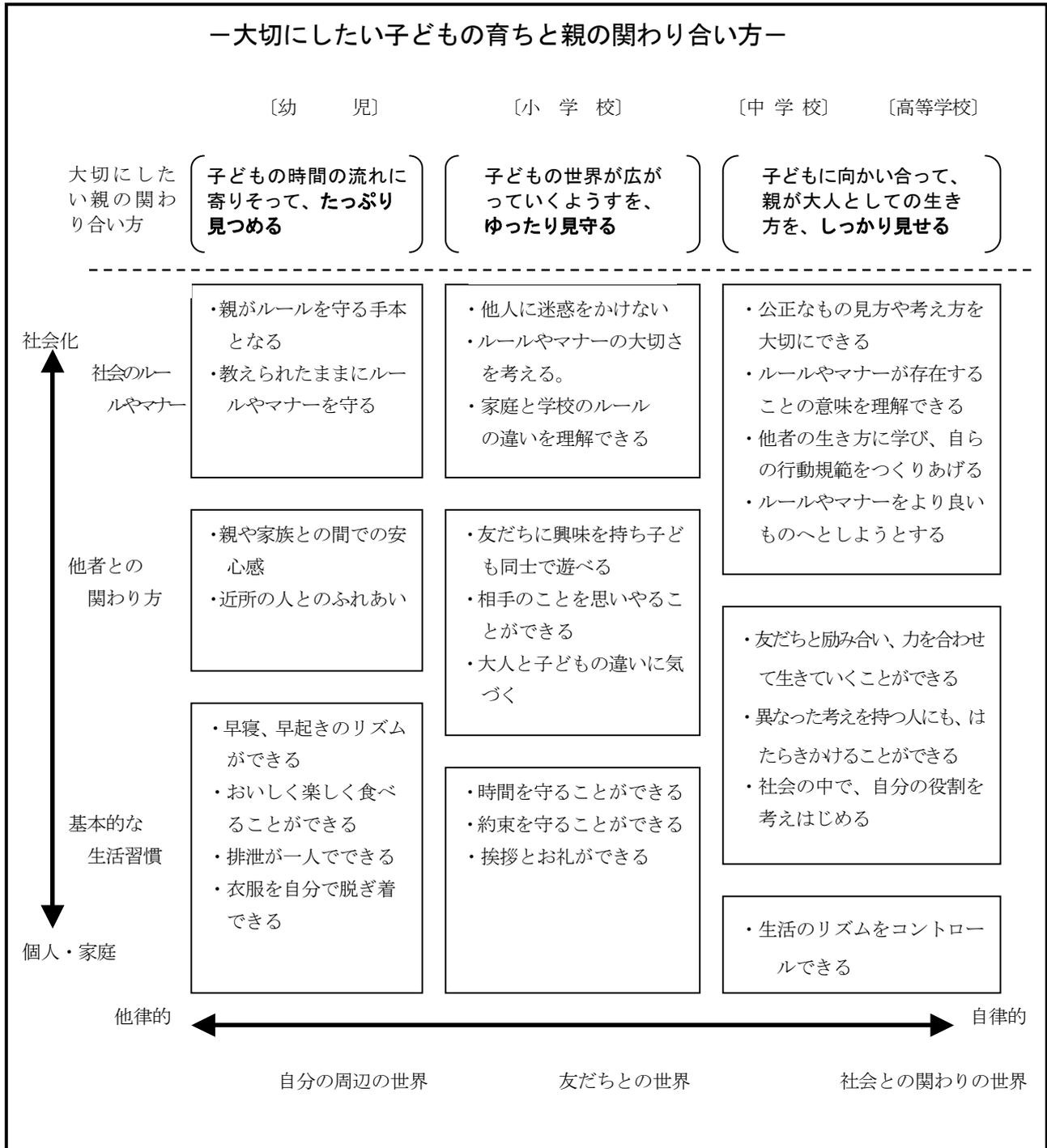
「小学校」

- ・「学び」の喜びを体験する。
- ・社会のルールを実践する中で、健やかに育てる。

- ・親も解決は子を前面に出し、親は裏にまわっていく時期
- ・幼児期より、社会性を育てていく視点を持ち厳しく。

「中学校・高校」

- ・親の生き方を見せる。（自立のモデルとなるべく努力する。）
- ・子どもと対等に話していく。
- ・職業感、人生設計など親の生きる姿を見せ、言葉で交換していく。
- ・自分づくりの大切な時期、社会に関心を持つ時期→自己肯定感を育てると同時に責任感を持てる。



## 【教育イベント『弘道おにいさんと親子体操で子育てを考えよう』】

### <開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年5月27日（土）9:30～11:00
- (2) 開催場所：神奈川県立体育センター（メインフロア）
- (3) 参加者数：620名（一般参加450名、見学等170名）

（※参加応募数：1,725通）

佐藤弘道かながわ人づくりフォーラム運営推進委員から、親子のふれあいの大切や、親の体力の低下などに関わる課題も提起しながら親子体操を行った。



### 【第4回実施概要】

- (1) 開催月日：平成18年5月27日（土）
- (2) 開催場所：神奈川県立体育センター

#### ○課題別ワークショップ [13:00～15:00 研修室B・C 参加者数35名]

ア. 教育イベント「弘道おにいさんと親子体操で子育てを考えよう」についての振り返り

午前の佐藤弘道運営推進委員による教育イベントを振り返り、保護者との対話による成果や子どもを通じての知り合いの輪が形成できた点について、それぞれ述べ合った。

イ. 特性要因図（Fish-Bone）を活用した課題解決に向けたグループ協議

「乳幼児期の子育てや家庭教育を支援する環境づくりを考える」というテーマでFish-Boneを使い、3つの課題を掲げ、グループ協議を行った。そして、乳幼児期の子育てや家庭教育を支援する環境整備に向けて、「実現したい課題」の取組みにかかる設計図を作成した。

- ①「子どもが子どもの時間の流れの中で、生活のリズムをつくることができる」
- ②「子どもが身近な人達への信頼と、活動への意欲や自信をもつことができる」
- ③「親が孤立化せずに、子育ての不安や悩みや、気軽に相談することができる」

#### 〔グループ協議のまとめ〕

乳幼児期の子育てや家庭教育を支援する環境づくり各グループのまとめとして、次の点が挙げられた。

- ①「子育て支援はWIN（子どもにとって）WIN（家庭の協力体制ができる）WIN（企業イメージの向上）」
- ②「みんなで楽しもう子育て」
- ③「地域のみなさん出番ですよ」「循環型子育て支援」

※なお、第4回ワークショップの時間内で結論まで行かなかったため、第6回ワークショップ（7月1日）に再度、グループ協議を行い、上記のとおりグループ協議により、とりまとめた。

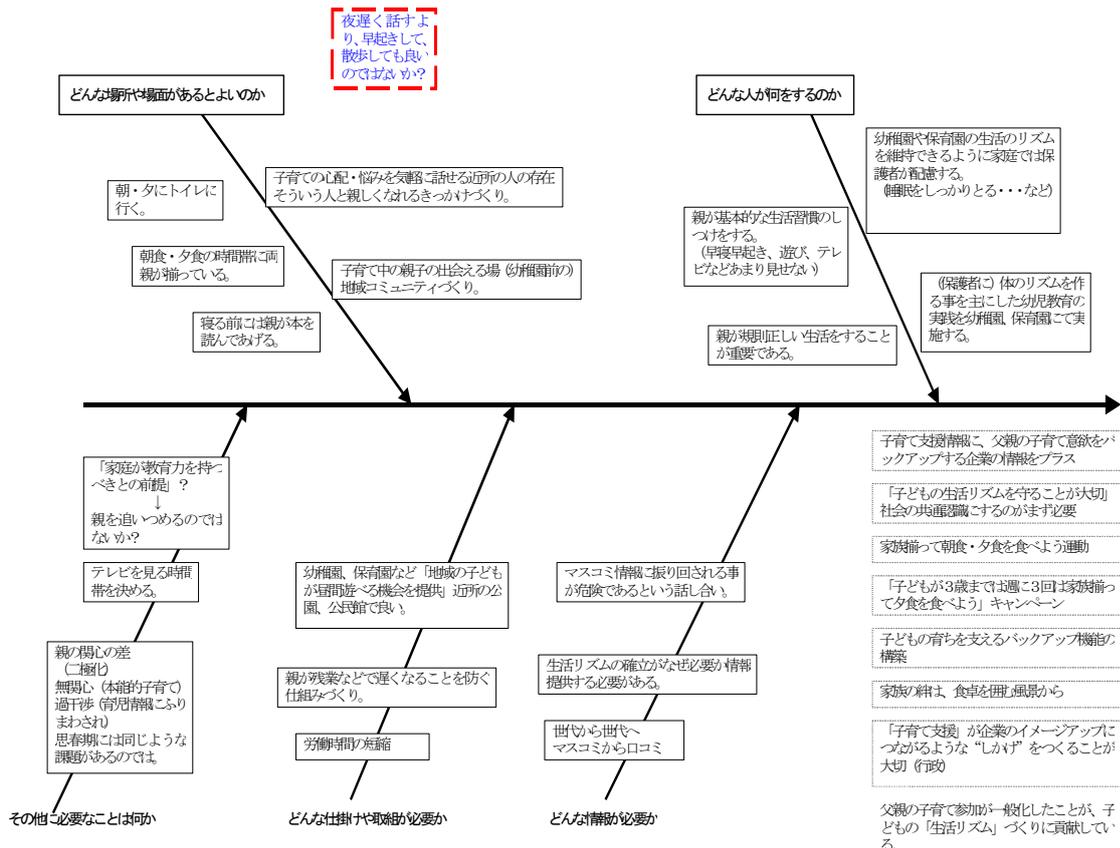
## 特性要因図 (Fish-Bone) を活用したグループ議論の内容

〔ワークショップA〕少子化時代に対応した家庭教育を支える子育て環境づくり

第4回ワークショップ  
18年5月27日 (土)

### 一乳幼児期の子育て・家庭教育を支える子育て環境の設計図をつくらう

〔子育て・家庭教育の充実を図るために実現したい課題〕 子どもが子どもの時間の流れの中で、生活のリズムをつくらることができる



〔家庭教育を支えている子育て環境のすがたIIゴールのイメージ〕  
子育ては、子どもにとってWIN・(家庭の協力体制ができる) WIN・(企業のイメージの向上) WIN

## 【第5回実施概要】

(1) 開催月日：平成18年6月3日(土) 9:30~12:50

(2) 開催場所：神奈川県立総合教育センター

○課題別ワークショップ [9:30~12:50 南1A研修室 参加者数22名]

ア. ロールプレイング「小学生の健やかな育ちを支える親や身近な人達の関わり方について」

共立女子大学家政学部、武藤安子教授の指導で、「小学生の健やかな育ちを支える親や身近な人達の関わり方について」をテーマにロールプレイングを行った。

初めての方もいることから、ウォーミングアップをおこなった後、「椅子の見立てを通して三者関



係を考える」や「小学校の子どもと親や先生、地域の人の関係を考える」について、参加者をグループに分け、そのグループの中でそれぞれの役になり、その役を体験しながら、気持ちなどについて、それぞれ考えた。

#### イ. 特性要因図 (Fish-Bone) を活用した課題解決に向けたグループ協議

「小学校期における子育て・家庭教育を支援する環境づくりを考える」というテーマで Fish-Bone を使い、5つの課題を掲げ、グループ協議を行った。そして、小学校期の子育てや家庭教育を支援する環境整備に向けて、「実現したい課題」の取組にかかる設計図を作成した。

- ①子どもが社会のルールを実践しながら身につけることができる。
- ②地域で親子が共に活動し、共に学んでいくことができる。
- ③親が、子どもの世界の広がりや、ゆったりと見守ることができる。
- ④子どもの安全が守られ、安心して健康に生活することができる。
- ⑤子どもが小学校生活をスムーズにスタートさせることができる。

#### 【グループ協議のまとめ】

小学校期の子育てや家庭教育を支援する環境づくり各グループのまとめとして、次の点が挙げられた。

- ①のゴールのイメージ「思いやりの I (愛) T (手) 化」
- ②のゴールのイメージ「大きく育てよう地域の樹 (気)」※元気、気持ち
- ③のゴールのイメージ「夢に向かってドキドキ、ワクワク、イキイキ」
- ④のゴールのイメージ「子どもを見守る親の目、学校の目、地域の目」
- ⑤のゴールのイメージ「豊かな話し合いのチャンネルづくり」

### 【第6回実施概要】

#### <開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年7月1日(土) 13:30~16:30
- (2) 開催場所：波止場会館1階多目的ホール

#### ○課題別ワークショップ [13:30~15:30 1階多目的ホール 参加者数30名]

「中学校～高等学校期における子育てや家庭教育を支援する環境づくりを考える」というテーマで、4つの課題で Fish-Bone を使い、グループ協議を行い、「実現したい課題」の取組に係る設計図を作成した。

- ①子どもが、地域の中で役割を持ち、主体的に活動することができる。
- ②子どもが、ルールやマナーをよりよいものへすることができる。
- ③親が、子どもに向かい合って、大人としての生き方をしっかりと見せることができる。
- ④子どもが、未来に向けて家族や家庭を大切に思うところを育むことができる。

#### 【グループ協議のまとめ】

中学校～高等学校期の子育てや家庭教育を支援する環境づくり各グループのまとめとして、次の点が挙げられた。

- ①のゴールのイメージ「地元から大きくのびる樹元気・気持ち、しくみづくり」
- ②のゴールのイメージ「広げよう思いやりの輪」
- ③のゴールのイメージ「想像してごらん親になる姿」
- ④のゴールのイメージ「命の大切さと愛する喜びを感じあう心」

さらに、第4回ワークショップで協議した「乳幼児期の子育てや家庭教育を支援する環境づくりを考える」が結論まで行かなかったので、最後のまとめを行った。

- ・「子育て支援はWIN (子どもにとって) WIN (家庭の協力体制ができる) WIN (企業イメージの向上)」
- ・「地域のみなさん出番ですよ」「循環型子育て支援」
- ・「みんなで楽しもう子育て」



#### 4 取組の方向性と具体的な解決策

##### 論点1 子どもの心とからだを育む家庭教育

- 子どもの発達段階に応じた親の役割、家庭教育のあり方を考える。
- 日常の生活体験を豊かにして、自然、命、自分を大切に、他人を思いやる心を育む。

##### 論点2 少子化時代に対応した子育て・家庭教育を支える環境づくり

- 子育て・家庭教育を支援するコミュニティづくりを推進する。
- 保育園・幼稚園・小学校における子育て支援を充実する。
- 企業や社会に対して子育て支援への理解を促進する。

#### <感想>

ワークショップAの「少子化時代に対応した家庭教育を支える子育て環境づくり」というテーマは、大変身近なテーマであったからか、いろいろな立場の人が、さまざまな意見を発表した。中でも、分析のために使われたカード(付箋紙)は、毎回100枚以上書かれ、さらに、熱心に意見交換がされた。その中でも、特には次の三点については、意見が集中したものである。

- ・子どもを育てるために、まず、親が成長するための環境づくりも必要であること。
- ・どの時期でも「愛情」と「ルール(社会性)」を子育ての基本に据えること。
- ・地域の中で、お年寄りの方のご協力は、今後ますます不可欠になっていくこと。

また、今回ワークショップAでは、主に二つの手法を使い、協議を進めた。

一つは、課題についての意見をカード(付箋紙)に書き、KJ法的方法を使って分類し、カテゴリ化されたものを検討する手法。もう一つはFish-Bone。この手法は特性要因図と呼ばれるもので、結果と結果に影響を及ぼしている原因の関連を相互関係図にまとめる手法。具体的には、問題についての要因をカード(付箋紙)に書き、魚の骨に沿って(項目ごとに)整理しながら添付していく。そして、最終的には各項目の主となる要因を整理し、具現化できるキャッチフレーズを考えていく方法で進めた。特に、Fish-Boneについては、最初のうち方法を理解するのに時間がかかってしまい、まとめられなかった。しかし、実際にできるようになると、要因を羅列するだけでなく、要因同士の関連を整理し、さらに体系的にまとめられるので、とても有益な手法であると感じた。

# ワークショップB実施結果報告

## 1 テーマ

### 「学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる学校づくり」

## 2 現状と課題の整理

- 生きる力の育成を重視した教育の実践が課題
- 心の教育や人間性の教育に力を入れる必要性
- 体験を通して思いやりや他者理解を育むことが課題
- 子どもの学ぶ意欲の低下
- 子どもの自主性を伸ばし、選択と責任のあり方を学ばせることが、神奈川の教育としての課題
- 子どもが直接社会とかかわる場・機会の減少
- 知識・技能の習得と、体験を通じた実践する力の育成とのバランスがとれた教育が学校の課題
- 自分の考えや思いを伝え合う力や表現する力など、コミュニケーション能力が低下
- 学校と保護者・地域の人々との信頼関係が十分でない。
- 学校が正しく理解されていない。
- 学校が開かれていない。
- 教師が子どもと向き合う時間がない。
- 教師が孤立し、チームになっていないなど連携が希薄
- 子どもの学習意欲を引き出し、個性を伸ばすこと、問題解決的な能力を育てることなど、個に応じた確かな指導や支援ができる教員の確保と育成が必要
- 教師としての自覚と責任、使命感に対する意識が希薄
- 教師の個々の専門性を高め、課題解決する研修が必要

## 3 議論のポイント

### 【第1回実施概要】

#### <開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年2月11日(土) 9:30~11:30
- (2) 開催場所：神奈川県自治総合研究センター

#### ○課題別ワークショップ [10:00~11:30 102 研修室 参加人数 48名]

「なんで勉強するの？」をテーマにグループごとに課題を洗い出し、グループで協議。今後の進め方についても議論。

#### 【主な意見】

初回ということもあり、「思いの丈をしゃべってもらおう」というのがメインの目的であったが、その意味では、9割ぐらいは成功だったのではないかと。「なんで勉強するか」という点については、「生きるため」「(「生きる」ことを考えることで「死」をも考える)」「よりよく生きるため」「生き方の可能性を広げるため」「知りたいから」「(勉強は興味が基本であり、生きていく糧になるもの)」「楽しいから」「(問題を解く、わかる、達成する喜びを得た時の楽しさ)」「将来役に立つ(子どもの時はわからない)」といった「生きるための教育」という視点の発言が多かった。(学力低下論に関する発言はなかった)

また、「どんな勉強が必要か」という点については、読み・書きなど社会生活に必要なもの「想像力・感受性を育てる」「知識だけではない脳を鍛える勉強」「自然の中でどう生きていく

か」「(地域、大人、異世代、環境など) 社会とのかかわり」「遊び」「学習塾の方が目的を見つけやすい」などが挙げられた。

今の学校教育に関して、「神奈川の教育には自由があるか？」という問いに対して、Bグループの多くの方が「自由だ」と答えていた。

## 【第2回実施概要】

### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年3月19日(日) 13:30~16:50

(2) 開催場所：神奈川県自治総合研究センター

○課題別ワークショップ [13:30~15:00 102 研修室 参加人数 34名]

前回の主な議論の集約として「よりよく生きるために勉強する」という回答を踏まえ、今回は「神奈川の学校はきちんと子どもを育てることが出来ていると思いますか？」をテーマにグループで協議。

### 【主な意見】

「どのようなところがそういえるのか」「なぜそう言えるのか」「よりよくするためにはどうしたらいいか」について論議した。

A：「神奈川の学校はきちんと子どもを育てている」

マナーや礼儀を教えている。自主性・自由な教育である。スポーツなどを通じた地域との連携は取れているなど

B：「神奈川の学校には問題がある」

入試制度、塾との関係での問題点など

C：「神奈川の教員はよくやっている」

自分を犠牲にしてやってくれる教員の存在。当時はそう思わなくても後になってそのよさや思いがわかる教員もいるということ。仕事はあっても7時半には学校を出されてしまう職場環境の問題など

D：「神奈川の教員には問題がある」

生徒を頼りにして、安易と思われる授業をする先生の存在など

○A・B合同ワークショップ [15:05~16:50 研修ホール 参加人数 51名]

「小1プロブレムを考える！」として、小学校1年生をめぐる課題について、幼稚園・小学校・医療の立場にある3名のパネリストによる基調提案などで共有化を図り、課題解決の方途に関して参加者を含む全体で協議

### 【主な意見】

- ・少人数学級についてもすべてそうすることが、よいのではなく、集団活動という面では多いほうがよいという意見もあり、研究の必要があるのではないか。
- ・スクールカウンセラーの相談を通じて来院するケースも多く、スクールカウンセラーの存在意義はあると思う。ただし、資質に差があるのが実状
- ・35人学級の必要性
- ・意識調査における学校と家庭の意識のズレについて



## 【教育イベント『海人丸 移動環境教室』】

### <開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年5月3日(祝) 10:00~12:40
- (2) 開催場所：葉山町一色海岸・寒川県立近代美術館葉山館（講堂）
- (3) 参加者数：110名

荒木汰久治運営推進委員が主宰するアウトリガー・カヌー・クラブ・ジャパンのスタッフなどの協力を得ながら開催した。

#### ア. はじめに

高木運営推進委員長から、参加者にワークショップBのテーマである、「学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる学校づくり」を意識してもらい、「海人丸 移動環境教室」での体験活動を通して、海や自然とのふれあいを通して身につける「人間力」について考え、学ぶことの意味を問い直すことで、今後の「かながわ教育ビジョン」づくりに向けた議論につなげていくという説明があった。

#### イ. 海人丸との出会いとこれまでの取組みの紹介

荒木委員から沖縄の伝統的な船であるサバニを紹介。鮫の肝臓の油や豚の血など、他の命から力をもらい、外洋を航海していた頃は人間の力が発揮されていたが、今現在は使われなくなっている。こうした人間の力を取り戻すべく、沖縄から愛知まで2,000kmの航海に昨夏にチャレンジした。



#### ウ. 海人丸の乗船体験

5つのグループに分かれて、小学校5、6年生の児童と保護者が体験乗船。海上から葉山の陸地を見ながら自然の力と人間の力を実感



#### エ. 『荒木汰久治さんの講演と航海記録の上映』神奈川県立近代美術館葉山館

(海辺での体験乗船のまとめの話も含む)

星や太陽の位置を元に、人間の力だけで針路をとって、行きたいところへ航海することができるという力がかつてはあったが、現代は科学技術の発達とともに逆に失われてきている。そうした力を持つ人を育てることが課題である。だからといって、過去へ戻ることができるわけではない。歴史の中で自分の居場所をしっかりと見据えて、技術や知識、そして体力を身につけ、現代の文明の中にあっても、人間の力を発揮できるようにすることが大事。子ども達には目標（島）をめざして生きて航海してほしいし、島が見えないときにも島はあるものだということも知ってもらいたい。

### 【第3回実施概要】

#### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年5月3日(祝) 13:30～15:30

(2) 開催場所：県立近代美術館葉山館(講堂)

#### ○ 課題別ワークショップ

[13:30～15:30 講堂 参加人数41名]

- ・ 前回のグループ協議で洗い出された課題を基に、4つのテーマでグループに分かれて協議



#### 【主な意見】

- ① 「子どもの意欲を喚起する教育はどうあるべきか」  
ほめること、子どもの興味関心がどこにあるか探ることが必要、地域や学校が協力して子どもに体験の機会を与えるなど
- ② 「神奈川の自由な教育をどうとらえるべきか」  
自由には責任が伴う、本質を考えさせる教育が必要など
- ③ 「学校は保護者や地域の人とどう対応すべきか」  
体験学習の場を地域に求めるや学校と地域の新しいかかわり方を構築すべきなど
- ④ 「教師の姿勢・力量を上げるためにはどうすればよいのか」  
自己研修の意欲の向上が必要、研修に参加しやすいシステム構築、eラーニングでの研修や教育センター以外の研修機会を増やすなど

### 【第4回実施概要】

#### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年6月3日(土) 9:30～12:50

(2) 開催場所：神奈川県立総合教育センター

#### ○ 課題別ワークショップ [9:30～12:50 3A研修室 参加人数52名]

- ・ これまで3回の議論の内容を次のように3つの論点に収斂することの確認

論点1 学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる学校教育

- 子どもの学習意欲を高め、「学ぶ力」や「生きる力」を育む教育を実践する。

論点2 希望と信頼にあふれる学校運営

- 適切な学校理解を図り、協力と信頼が得られる情報の発信・提供などの工夫・改善

論点3 人づくりを担う教職員の確保と育成

- 実践的な指導力向上を図る校内研修の活性化と強化などにより、教職員一人ひとりの職能成長に応じた現職教育(教職員研修)に取り組む。

- 学校教育・学校運営の推進を図る高い専門的な力量を身に付けた教職人材の育成に取り組む。

- ・ 収斂した内容に関して、2つの視点から参加者個々に検討作業(付箋活用)



## 【主な意見】

- ① 「各論点に付加したい新たな提案内容の検討」
  - ・「子どもに焦点を当てたテーマ」として、「人格、人間力の向上」や「子どもが将来に希望が持てる社会づくり」「次の社会を担う、未来を拓くことのできる問題解決能力を身につけた子どもを育てる学校運営、教職員の採用・育成」など
  - ・「教師に焦点を当てたテーマ」として、「教師の意識改革」「教師の質の向上」「地域と教師が刺激し合いながら子どもを育てる」など
  - ・「学校に焦点を当てたテーマ」として、「学び合いの場として学校づくり」「子どもたちが行きたくなる学校づくり」「学びのモデルが提示できる学校」など
  - ・「地域との連携に焦点を当てたテーマ」として、「子ども、教師、地域が共通したコンセプトで動く学校づくり」など
- ② 「論点の3つに共通する、議論全体を表現するテーマの検討」
  - ・論点1の新たな提案として、「心を育てる」「生きる力を育てる」「自然とふれる」「個に応じる」「基礎・基本を押さえる」「学習意欲を高める」「問題解決能力を育てる」「家庭の教育力も高める」「地域で育てる」など
  - ・論点2の新たな提案として、「保護者と子どもに安心を与える」「学校の情報を発信する」「学校を開き、地域と連携する」「効率的な学校運営を目指す」など
  - ・論点3の新たな提案として、「教師としての基礎基本を徹底する」「得意分野を伸ばし、リーダーを養成する」「より高い資質を得られる研修を充実させる」「校内研修を充実させ、校内で教え合いを活性化する」「優秀な教師を確保する」「教師の努力を評価する」など

## 【教育イベント『高校生と考える教育ビジョン』】

### <開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年6月17日(土) 13:30~16:30
- (2) 開催場所：神奈川県立小田原高等学校(会議室)
- (3) 参加者数：147名

#### ア. 課題提起『他者を尊重し共感・共生できる力』

千々布運営推進委員が、参加高校生に直接問いかける形で、演劇ワークショップ及び教育委員との論議について、参加することへの動機づけを行った。

#### イ. 演劇ワークショップ『かかわる楽しさ、伝え合う心』

劇作家で、かながわ人づくりフォーラム運営推進委員でもある横内謙介氏が、主宰する扉座の劇団員と一緒に、指導した。

##### ①ストレッチ

劇団員の指導のもと、音楽に合わせてストレッチを行い、体をほぐしながら、改めて自分の体の存在や感覚を高めた。

##### ②シアターゲーム(グルーピングを中心に)

同じ特徴を持つ仲間を、大きな声や身振りを使



って見つけるゲームを行った。大声を出しあい、自分の日常の枠を取り払って心をほぐすとともに、相手からの情報を受け取ることで、相手の存在に気づき、かかわる楽しさに触れていった。

③台本「リボンの騎士―鷲尾高校演劇部奮闘記」より（セリフ練習）

横内氏がネコのぬいぐるみをわざと床に落とし、その痛みを想像し、感じる事が演技の基本であると説明した後、4グループに分かれて横内氏作の「リボンの騎士―鷲尾高校演劇部奮闘記」を用い、ペアになってセリフの読み合わせを行った。

ただ単にセリフをやりとりするのではなく、相手の目を見てしっかりと話を聞くことから心が伝わっていくことを、体験を通して実感していた。



ウ. 教育委員と高校生との教育論議『かながわの教育を考える』

生徒の司会進行で、多くの高校生から活発な発言があり、教育委員、運営推進委員や横内氏をはじめ扉座のメンバー、見学の県民の方との意見交換が行われた。高校生から見た同世代の人達への思いや、教員に対する願い、自分自身の学びの姿勢などを論議するばかりでなく、家庭教育の重要性にまで論議が及んだ。最後に平出彦仁教育委員長と引地孝一教育長から、これからの高校生に対する期待が語られた。



【論議での高校生の主な意見】

- ・フレキシブルスクールであるので、男女も先輩後輩もなく楽しく過ごせている。
- ・フレキシブルスクールだといわゆるクラスがなく、男女が別れて固まってしまう。
- ・世間のマナーの悪さが目につく。電車に座り込む。小さい子どももしつけがなっていない。ニートなど自分の将来の目的について見えていない。これでは、これから日本はどうなるかと思う。
- ・子ども、生徒にも悪いところがあるが、態度からして、やる気のない先生もいる。プリントを配るだけ。生徒と接触のない先生。そういう先生が増えると悪い方向に行く。
- ・今、先生とのコミュニケーションが少ないと考えるので、自分（が先生）ならもっとコミュニケーションをとって、生徒を理解したい。
- ・生徒の進路について真剣に考えてくれる先生が少ない。そこに時間を割いてくれる先生が必要。
- ・自分の素を出してくれる（先生がいる）。専門力がすごく、自分や家族のことを話してく

れたり、教育委員会に批判的だったりなどと、思ったことをちゃんと言ってくれるので、先生像がわかる。授業以外のところでも、生徒と先生の距離が短い。

- ・人によって望ましい先生は違う。自分の人生を決めるのは自分。責任転嫁してはいけない。先生にただ従うのではなく、悪い先生にあたったとしたら自分で自分を考えるチャンスにすればいい。
- ・目上の人に対するマナーや、公共のマナーを身に付けることが大事だが、こういうことは、先生ではなく親に教わるべきものだ。
- ・教師に対する不満はある。生徒同士で最も盛り上がる話題に違いない。でも、例えば新任が下手なのは仕方がないこと。自分が先生になったって急にはできない。自分にできないことを人に求めることはどうか。

## 【第5回実施概要】

### <開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年7月1日(土) 13:30~16:30

(2) 開催場所：波止場会館 5階多目的ホール

○課題別ワークショップ [13:30~15:30 5階多目的ホール 参加人数52名]

・学校教育の内容、学校運営、教職員の確保と育成の3つの論点で整理した内容を全体で協議。その後、ワークショップを振り返りながら、他のグループに関わることやキーワードなどを整理

### 〔主な意見〕

(1) ワークショップBグループの学校づくりの観点から見た、①家庭と②地域社会に期待する役割について、参加者による検討作業（付箋活用）

①「家庭教育という認識を持っていない人が増えている」「親子の対話をしっかりする」「朝ご飯をたべさせる」「あいさつをしっかりさせる」「子どもを育てられない親への支援」「家庭教育のガイドラインの作成」「少子化問題も踏まえた親の精神的な負担へのサポート」など

②「働く立場の親を取り巻く社会環境の整備」「家庭教育への配慮をする企業への顕彰」「地域のボランティアが学校の業務をサポートする」など

(2) 「私の考える教育ビジョン」としての参加者による検討作業（付箋活用）

(ア) 「これからのかながわの教育に必要なキーワード（キャッチコピー）」

・「学校、家庭、地域の協働」「つなぐ、つながる、つなげる教育」「シームレスな人づくり場づくり」「大人も子どもも共に学び育つ教育」など

(イ) 「教育ビジョンの中に入れてたい「人物像」「教育像」

・「弱い立場、困っている子どもたちに視点を当てた教育」「自己実現と社会形成のバランスのとれた教育」「教師である前にすてきな人になる」など

(ウ) 「これまでの議論の進め方と今後の課題」についての検討作業

・「論点をはっきりしていて問題点や意見を出しやすかった」「参加者の意見を出来る限り多く拾う進め方が、地域の意見を県の教育方針に反映させる趣旨に合致していた」「現在進行中の教育改革の分析、検証が不足していた」「この議論を真に必要な人たちに届けるための工夫が必要」「学校の土台作りー日本全体を視野に入

れた地域協働」「教育ビジョンを共有するインターネット上のコミュニティを作る」など

### (3) ファシリテーターによるまとめ

千々布運営推進委員から、これまでの議論で出てきている多くの意見は、人を育てるという教育の原点にもどる考え方を基本としており、このことを実践して教育への信頼を増すことで、従来の教育改革に一定の区切りをつけるという方向性が確認できた。

鶴岡貴美子運営推進委員から、ワークショップ全体を振り返り、現場の教員や市民の感覚を大切に、課題を解決するための指針を見つけていくことに期待するコメントがあった。

これまでの議論を踏まえ、学習評価などこれまで論議されていない課題も含めて、運営推進委員会を中心に「教育ビジョンに関する提言」の取りまとめを行い教育委員会に伝えていくことが確認された。

## 4 取組の方向性と具体的な解決策

### 論点1 学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる学校教育

- 子どもの心を育て、生きる力を育てる
- 基礎・基本を押さえ、学習意欲を高める教育を行う
- 学校に任せず、家庭でも子どもを育てる
- 地域が学校と協力して子どもを育てる

### 論点2 協働と信頼に根ざした学校運営

- 学校を保護者や地域に開き、情報を公開すると同時に協力を求める
- 学校や教育委員会は毅然とする
- むだをなくし、効率的で効果的な学校経営を目指す

### 論点3 人づくりを担う教職員の確保と育成

- 教師は自らの使命を自覚する
- 教師としての基礎基本を徹底し、より高い資質を得られる研修を充実させる
- 教師が行政研修を受講しやすくするため、受講手続や研修方法を工夫する
- 養成、採用段階から優秀な教師を確保し、一貫したシステムで教師を育てる
- 子どもたちの教育のために日頃から尽力している教師をきちんと評価する
- 教師の得意分野を伸ばし、リーダーを養成する
- 校内研修を充実させ、校内での教師同士の教え合いを活性化させる
- 教師の自主研修を支援し、多様な研修の機会を保障する

## ワークショップC実施結果報告

### 1 テーマ

#### 「生涯を通じた自分づくりを応援する環境づくり」

テーマが広範囲にわたることから、ワークショップCでは、3つのグループに分かれて協議を進めることとした。

- ①「生涯にわたっての自分づくり」
- ②「若者の自立支援」
- ③「コミュニティづくり」

それぞれ違う観点から議論をして課題の洗い出しを行い、それを解決するための支援策などを協議。

### 2 現状と課題の整理

- 地域での活動に対する住民の参加意識が低下
- 自分づくりに向けた場づくり、機会づくりが課題
- 地域交流を促進するリーダー的な役割を担う人材不足
- 地域交流の希薄さから地域の安全に対する不安が増加
- 自分づくりを支援してくれる人や情報提供が不十分
- 一生を通じて自分を探していく意欲や知識の欠如
- 働くことなど社会で生きていく力が育っていない
- フリーターやニートに陥る若者の増加
- 異世代間の理解や交流がなかなか難しい

### 3 議論のポイント

#### 【第1回実施概要】

<開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年2月11日(土) 9:30～11:30
- (2) 開催場所：神奈川県自治総合研究センター

○課題別ワークショップ [10:00～11:30 101 研修室 参加人数 33名]

3つのテーマについて、グループに分かれて意見の表明と課題の洗い出し、検討作業（付箋活用）

[主な意見]

- ①「生涯にわたっての自分づくり」
  - ・自分づくりのための時間を増やすには、自分の時間の解析と、重要度の分類が重要
  - ・きっかけ機会づくりは、先輩（年配者）との話を聞き参考にすることが重要
  - ・情報については、機会・活用事例などの情報提供の質と量の向上が必要



・仲間づくりのためには、企業の退職者を対象とした懇談会などの開催

## ②「若者の自立支援」

社会で生きていく力を育てるために、

- ・学校では、小学校の時から「社会」を意識した授業の実施
- ・家庭では、働く姿、働く意識を家庭の中で積極的に話すことを実践
- ・地域、社会、行政は、地域イベントで年齢を超えた「つながり」を確保

地域で生きていく「自分づくり」をしていくためには

- ・不安や焦りなどを安心して話せる場所づくり

## ③「コミュニティづくり」

- ・地域づくりと行政及び法律との関係では、行政の好意的な関与が大切
- ・地域住民による交流の核づくりでは、場づくりとリーダー的な役割の人が大切
- ・世代間の交流（現実にはなされていない）では、地域、世代間交流に強制力のあるものを導入
- ・コミュニティづくりの基本となるルールをしっかりとつくって守っていくことでは、ルールを予め策定し、各世帯へ文書で広報

## 【教育イベント『体験的演劇ワークショップ「発見！私のチカラ・新たなステージ』】

<開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年3月11日(土) 9:30~12:30
- (2) 開催場所：県立青少年センター（多目的プラザ）
- (3) 参加者数：85名

最初に、佐藤晴雄運営推進委員会副委員長が、中高年齢層を対象にした参加者に対して、「生涯を通じた自分づくり」を意識してもらい、「演劇ワークショップ」を通して、日頃気づいていない自分との新たな出会いや発見ができる機会の大切さを体感してもらいたい旨の説明があった。続いて、劇作家で、かながわ人づくりフォーラム運営推進委員でもある横内謙介氏が、主宰する扉座の劇団員と一緒に、指導した。その後、横内氏の進行で、演劇ワークショップを通して、気づいたことや感じたことなどの話し合いが行われた。



## 【第2回実施概要】

<開催の状況>

- (1) 開催月日：平成18年3月19日(日) 13:30~15:00
  - (2) 開催場所：神奈川県自治総合研究センター
- 課題別ワークショップ [13:30/15:00 101 研修室 参加人数 29名]

前回の課題の洗い出しを受けて、引き続き次の3つのテーマについて、「個人が担うもの」「行政が担うもの」「協働で担うもの」に分類し、さらに「すぐに着手できるもの」「中長期的に取り組むもの」にカードを使用して振り分ける検討・協議の実施



### 【主な意見】

#### ①「生涯にわたっての自分づくり」

○自分づくりには、時間、仲間、情報が必要

（個人が担うもの）日頃の生活を重要度分類し、時間を捻出する。

（行政が担うもの）仲間づくりのため個人のホームページなどで自身をPRする。

（協働で担うもの）小中高を拠点として活用し、積極的にPRする。

#### ②「若者の自立支援」

○若者のために、学校と親が相談できる環境をつくる必要がある。

（協働で担うもの）学校行事の土日開催など働く親が学校に参画できる機会を増やす。

（協働で担うもの）教師も地域に出向き、気軽に家庭訪問できる環境をつくる。

（協働で担うもの）親同士の不安や苦労を安心して話せる場をつくる。

#### ③「コミュニティづくり」

○地域の力が発揮できる環境づくりを進める必要がある。

（個人が担うもの）あいさつする、仲間を集める、子育てをきちんとする。

（協働で担うもの）異世代が交流できる場をつくる。

（協働で担うもの）地域に応じた地域づくりのやり方を考える。

### 【第3回実施概要】

<開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年4月22日(土) 11:10~12:40

(2) 開催場所：神奈川県立総合教育センター

○課題別ワークショップ [9:30-12:50 3C研修室 参加人数33名]

前回の議論をさらに深めるため、整理した内容について「効果の大きいもの」と「効果が小さいもの」に分類し、各グループで協議



①「生涯にわたっての自分づくり」

	すぐに着手可能なもの	中長期的に取り組むもの
個人で担うもの	・情報を得るために、広報を見たり、市役所、公民館を訪問	・長続きする仲間づくり
行政で担うもの	・「自分づくり」の情報を提供するために、ホームページや紙媒体を充実	・人材育成のために、教育・訓練の場をつくる
協働で担うもの	・学校と地域の協働のために、県内各企業に退職者を対象とした懇談会などの開催を促す	・多くの人々が持つ知識・経験を社会に生かせる機会づくりのために、会社の人事部などへ情報提供のシステムを構築する

②「若者の自立支援」

	すぐに着手可能なもの	中長期的に取り組むもの
個人で担うもの	・家庭の一構成員という自覚と責任を育てるために、役割を持たせ実行させる。 ・自分の身近生活を自立させるために、自分のことは自分でさせる。	
行政で担うもの	・自分の生き方を考えるために、小学校からのキャリア教育を充実	・小中大で系統的なキャリア教育プログラムを作る
協働で担うもの	・キャリア教育を充実していくために、教師と親がキャリア教育を充実 ・地域と協力して小学校からインターンシップを実施	

③「コミュニティづくり」

	すぐに着手可能なもの	中長期的に取り組むもの
個人で担うもの	・コミュニケーションのきっかけとして地域の人と挨拶する。	・地域を活用して社会性を育むために、家庭でも子どもたちに教える。
行政で担うもの	・教育実習を地域で実施する	・学生ボランティアの活動の場を与える
協働で担うもの	・学校を開く（ボランティアの受入）	・家庭に大人が居られるようにする。企業などの労働条件改善の努力

**【第4回実施概要】**

<開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年6月3日(土) 9:30～12:30

(2) 開催場所：神奈川県立総合教育センター

○課題別ワークショップ [11:00～12:30 3C研修室 参加人数25名]

これまで3回の議論の内容を収斂した資料で、再度全体で協議した。新たに付加すべき論点を検討し、明瞭なフレーズを付して整理

3つのテーマに共通する課題について検討した意見の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある施設で、子ども、大人をつなぐ取組みの方法を検討</li> <li>・誰でも集いやすい場の設定（地区地区によって違うはず）</li> <li>・人材育成（地域協働コーディネーターを県が育成する）</li> <li>・「連携」という言葉で曖昧にするのではなく、「協働」「融合」の必要性</li> <li>・子ども、若年、中年、老年の各層とのふれあい、共同作業を行う「場」の形成、機会の提供、建設</li> <li>・「自分づくりモデル」事例と人材の育成とパブリシティを利用したモデルのPR（広報、ホームページなど）</li> <li>・教育期間の見直し（教育の水準を落とさず、じっくりと月日をかけて教育する。それにより、ある種のゆとりや考える力、人間観を育む時間を設ける。）</li> </ul>
各論点に付加したい新たな論点や具体的な取組みの方向について検討した意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントを通して学習する機会を提供</li> <li>・様々な年齢層が同一の場で学ぶ大学、あるいは教育機関の形成</li> <li>・キャリア支援センターをハローワークと関連づけて設置し、そこでキャリア開発管理を希望する者に実施</li> <li>・若者の自立支援に向けたキャリア教育を推進する上でも若者の実態の正確な把握が必要</li> <li>・キャリア教育の内容について共通認識づくり</li> <li>・スポーツ、文化の振興</li> </ul>
これまでの議論を基に明確なフレーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 第1のカテゴリー：「場の活用・施設の整備（企業のかかわり）」</li> <li>② 第2のカテゴリー：「キャリア教育」</li> <li>③ 第3のカテゴリー：「安全・安心の街づくり」</li> <li>④ 第4のカテゴリー：「教育資源（リソース）の活用」</li> <li>⑤ 第5のカテゴリー：「コミュニティづくり（地域・連携）」</li> </ul>

課題の整理	論点1	地域の教育コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の様々な人々がかかわれる場づくり</li> <li>○ 地域、家庭、学校をつなぐ人材育成の推進</li> <li>○ 安全、安心の街づくり</li> </ul>
	論点2	生涯を通じた自分づくりや自立を応援する教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民一人ひとりに多様な学習ニーズに対応できる機会や場の設定、情報提供の充実</li> <li>○ 地域、家庭、学校が協働して、若者の自立支援に向けたキャリア教育の推進</li> <li>○ 大人の子どもの理解と子どもの大人理解</li> </ul>

○B・C合同ワークショップ [9:35～11:00 中講堂 参加人数 74名]

ワークショップCの主催で、「子どもの学びと生き方・進路との一体化に向けたキャリア教育を考える！」を行った。宮城まり子運営推進委員がコーディネーターを担当して基調提案を行い、それに引き続き3名のパネリストが実践報告を行った。

- ① パネリスト鈴木美喜運営推進委員による報告  
「小学校でキャリア教育に取り組んで一小学校から中学校へと学びをつなぐ工夫」
- ② パネリスト廣幡清広公募委員による報告  
「体験活動を通じて高校生の勤労観・職業観の育成を図る実践—小田原城東高など学校のチャレンジショップの取り組み—」
- ③ パネリスト工藤智公募委員による報告「大学生へのキャリア支援について」
- ④ 宮城委員より、中学・高校のみならず、小学校の早い段階から、児童・生徒にキャリア発達支援を行っていくことの必要性が指摘された。キャリア教育は、自己形成にとって、そして自分のあり方などのキャリア発達にとって重要であり、特に、(1)自分の



なりたい姿の見出し、(2)自分の興味・関心の理解、(3)自分は何が得意なのか(弱みは何か)の見出し、(4)自分は何を大事にして生きていきたいかの探求、(5)自分の役割と責任の自覚、(6)自分はどのように行動したらよいかの探求の6点が、大事な点であるとまとめた。実践にあたっては、キャリア教育プログラムを開発し、それを各学校で実態に応じて活用していくことが重要である。

[主な意見]

- ・キャリア教育の実践を聴き、現在の学校教育での取り組みはすべてを包括していると実感した。
- ・雇用形態が変わる中で、学校と企業とがキャリア教育を通じて求めている人間像について、これから整合性を図る必要があると考える。
- ・児童・生徒一人ひとりが多様で、異なった知識や経験を有する中で、キャリア教育では子どもたち一人ひとりにあったプログラムを開発し、きめ細かく実践することが大事である。

## 【第5回実施概要】

<開催の状況>

(1) 開催月日：平成18年7月1日(土) 13:30~16:30

(2) 開催場所：波止場会館 5階多目的ホール

○課題別ワークショップ [13:30~15:30 5階多目的ホール 参加人数22名]

「場や施設の活用(企業のかかわり)」「キャリア教育」「安全・安心の街づくり」「教育資源(リソース)の活用」「コミュニティづくり(地域・連携)」の視点で整理した内容を全体で協議。その後、2つの論点から、ワークショップを振り返り、成果の取りまとめを確認。新たに「かながわの文化・スポーツの振興」という論点を付け加え、「文化やスポーツなど自ら体感することを目的とした機会づくり」・「文化の伝承・創造」・「健康増進」など、考えられる分類項目が整理できた。



[主な意見]

### ①「地域の教育コミュニティ」

- ・「地域の様々な人々がかかわれる場づくり」の項目に関しては、「場の活用」「高齢者施設や高校、大学を活用した場づくり」「利用しやすい環境づくり」「街づくりや自治体行政への参画しやすいシステムづくり(自ら参画)」の4つに大きく分類
- ・「地域、家庭、学校をつなぐ人材育成の推進」の項目に関しては、「かながわの豊富で多彩な人的リソースの活用(会社、退職者、子どもまでを含む)」「人材活用のためのシステムづくり」「コーディネータなどの人的スタッフの育成」の3つに大きく分類
- ・これまで3つの項目として整理した「安全、安心の街づくり」については、「地域の様々な人々がかかわれる場づくり」に包括し、整理統合

### ②「生涯を通じた自分づくりや自立を応援する教育」

- ・「県民一人ひとりに多様な学習ニーズに対応できる機会や場の設定、情報提供の充実」の項目に関しては、「自分づくり(主体の取り組み)」「自分づくりの支援(行政などによるしくみづくり)」「自分づくりの支援(連携した取り組み)」の3つに大きく分類

- ・「地域、家庭、学校が協働して、若者の自立支援に向けたキャリア教育の推進」の項目に関しては、「学校教育での取組み」「学校外との連携した取組み」「若者の自立支援に向けた取組み」の3つに大きく分類
- ・これまで3つ目の項目として整理した「大人の子ども理解と子どもの大人理解」については、「県民一人ひとりに多様な学習ニーズに対応できる機会や場の設定、情報提供の充実」と「地域、家庭、学校が協働して、若者の自立支援に向けたキャリア教育の推進」に振り分け、整理統合

#### 4 取組の方向性と具体的な解決策

##### 論点1 新たな教育コミュニティづくり

- 地域の人が様々に関われる場づくりを進める
- 地域・家庭・学校をつなぐ人材を育成する

##### 論点2 生涯を通じた自分づくりの応援

- 多様な学習ニーズに対応できる場や機会をつくり、情報を提供する
- 地域・家庭・学校が一体となって、子どもに働くことの大切さを伝える
- 一人ひとりが健康・体力を増進させ、生活の質を高める

##### 論点3 かながわの文化芸術・スポーツの振興

- かながわの文化芸術を継承・発展させ、生活に根付かせる
- 生活の中で身近に運動やスポーツができる場や機会づくりを進める

#### <おわりに>

第1回目の時、どのような事をするのか不安でしたが、自己紹介をしていくうちに周りの雰囲気慣れてきました。各テーマに分かれ、教育に対する思いを話していると、時間があっという間に経ってしまいました。それぞれの人々が、今までに経験したことを踏まえ、その経験をどのように教育に反映したらよいのか、教育に対する熱い思いや期待の大きさを会話の中からも凄く感じられた一日でした。

このワークショップCでは主に、カードを活用した意見等整理の方法を用いて、テーマに対するそれぞれの課題を書き出し、グループ分けをして論点を見いだす作業をしました。グループ分けが終わると、さらに細分化し、各エリアに不足しているところの課題を洗い出す作業を行いました。細分化が終わると、どのように課題を解決できるのかを考え、「すぐに着手可能なもの」と「中長期的にかかるもの」に分けて考えました。

各テーマを細分化しそれぞれの課題を解決できる手立ての中で、共通するものを検討し、それぞれの議論に基づく明瞭なフレーズをカテゴリー別に分類しました。また、その中で、検討してこなかった、フレーズなども同時に議論を重ねました。最終的にワークショップCでは、これからの論点として、「地域の教育コミュニティ」「生涯を通じた自分づくりや自立を応援する教育」「かながわの文化・スポーツの振興」と3つの論点(課題)を見出すことができました。最後に、「私が考える教育ビジョン」という最初の振り出しにもどり、意見を出してもらいました。かながわの教育に必要なと考えるキャッチフレーズとして、「だれもが、どこかに見付けられる生きがいづくり」「受ける人も授ける人もワクワクしよう」などの意見も出ました。また、教育ビジョンの中に入れていたいと考える「人間像」「教育像」というイメージには、「コミュニケーションのとれる人間」「基礎基本をおろそかにせず、その上で課題発見・解決力をつける教育」などの意見も出ました。

## II 参加者のアンケート記録

第1回かながわ人づくりフォーラム・ワークショップ（2月11日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：23）

(1) アンケート提出者の性別 (人)

男性	15	23
女性	8	

(2) アンケート提出者の年代 (人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	1	0	4	2	3	4	1	15
女性	1	2	3	1	1	0	0	8

(3) 本日の参加グループ

(アンケート回収23名の内訳)

グループ	ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C	計
男性	1	9	5	15
女性	3	4	1	8
合計	4	13	6	23

(4) 本日のワークショップの内容はいかがでしたか (人)

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	11	3	1
女性	3	4	1
合計	14 (61%)	7 (30%)	2 (9%)

### 【「よかった」主な理由】

- 職種、年代、性別を越えた参加者とのつながりができ、よかった。(10代男性、10代女性、30代男性)
- 他の参加者の考えを聞き、自分の考えに肉付けをすることができた。(20代女性)
- 色々な意見が出され大変勉強になった。(30代男性)
- はじめてで何をやるのかわからず来たが、皆さんで作業を進め、非常に楽しい時間を過ごすことができた。(30代男性)
- 「なぜ勉強するのか」というテーマでの協議は、当たり前のことだが中々難しい。子どもは成長しながら、楽しく勉強することが肝心と考える。(70代男性)

### 【「どちらともいえない」主な理由】

- テーマは良いが、討論する時間が短すぎて、予定のところまで話が進まなかった。(30代女性)
- 短時間の中で段取りよく進んだのは良かったが、今回は議論する時間が十分ではなかった。(50代女性)
- 議論を深めるには、もっと時間が必要と感じた(60代男性)
- もっと的をしばった議論ができればよかったと思う。(20代女性)

### 【「よくなかった」主な理由】

- 参加したグループでは、短時間で議論を深めることができず、現在の問題点や課題の洗い出しでは解明に向けてはまだ不十分と考える。(60代男性)
- 意見がまとめに反映されていないところがあった。(30代女性)

(5) ワークショップでの議論を通じて興味・関心が持てた意見やアイデア

- 生きる力を育むこと
- 不登校児でも学べる環境の必要性
- 今の現状では子どもたちにとってよくないと危機感を持っている方が多かったこと
- 子ども同士、大人同士のコミュニケーションが大事であること
- 学校の実態について意識調査を用いて共通認識を深めていくことの必要性
- 自分づくりに向けたきっかけづくりの大切さ
- 学校の問題、塾の問題、勉強のとらえ方等について
- 総合的な学習の時間の継続の希望
- 「勉強する」＝「生きる」、「どう生きたいか」＝「どう生涯を全うするか」について
- 「神奈川の教育は自由なのか」、「どうして勉強するのか」への自分への問いかけ
- 安心して家庭教育に取り組めるサポートがあるとよいと感じたこと（親が生き生きしている＝子どもも生き生きする）
- 学校での学びに対するモチベーションを高める方法について
- 「かながわらしさ」への関心
- 命や自然を学ぶこと

(6) ワークショップに参加しての気づきや発見

- 学校の役割と子どもの居場所
- 様々な業種や立場の人が参加したワークショップがとてもよかったこと
- 若い人の参加があり、期待をもてること
- 教育委員といっしょに話し合う場がつけられ、参加できたことへの感謝
- 今の家庭は子どもの人格を尊重していると思っている人が多かったこと
- 時間やルールを守って、多くの人がワークショップに取り組めたこと
- もっと議論をする時間がほしいと感じたこと
- 学ぶ目的から、生きることや知ることの大切さにつながる意見が出されたこと
- 今の子どもを理解するのが難しくなっていることを、大人がもっと気づくこと
- 不登校の受け止め方が、小中高、保護者と教師の間で違うと感じたこと
- 教師の発想が学校教育の枠の中でしか浮かばないのかと感じたこと
- ワークショップで出された課題をある程度まとめ、具体的な対策を出すところまでもっていきたいこと
- 学校で学べることの一つに、日々を必死に生きることの楽しさ、そのための根気もあるということ
- 同じことを考えているメンバーが集まり、心強くなったこと
- 様々な世代の方が、今の私たちに対する「教育」に熱心だったということ

(7) ワークショップで話題にしてほしいテーマ

- 「心の教育」と「手厚い教育」（少人数など）
- 地域との協働の議論
- 神奈川の学校教育で何が問題かについて
- 総合的な学習の時間の授業内容について
- ゆとり教育がもたらしたもの
- 子どもたちの考える力は育っているのか
- 学校と塾の違い、役割について
- 「たくましさ」「思いやり」や生きる目的を考える力について
- 少子化時代に行政の果たすべき役割について
- 健全な子どもを育てるために大事な親の役割について

## かながわ人づくりフォーラム・教育イベント

体験的演劇ワークショップ 『発見！ 私のチカラ・新たなステージ』（3月11日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：40）

（1）アンケート提出者の性別 （人）

男性	10	40
女性	30	

（2）アンケート提出者の年代 （人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	0	2	3	1	1	2	1	10
女性	0	3	6	4	14	2	1	30

（3）本日のワークショップの内容はいかがでしたか（人）

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	10	0	0
女性	29	1	0
合計	39 (98%)	1 (2%)	0 (0%)

### 【「よかった」主な理由】

- 3時間、内容が濃くて、本当に新たな自分を発見した感じでした。みんなで一体になって楽しい雰囲気でした。(20代女性)
- すばらしい先生と仲間たち、おごらずに誠実な印象を受けた。(50代女性)
- 大声を出す、笑う、みんなで一つのことに向かうなど、普段あまりしないことができ、解放されたような気持ちになった。(30代女性、50代女性)
- 表現力、想像力を育てることの大切さが重要だと思った。(30代女性)
- 体験型であったため、一方的に与えられるより、より具体的に自分のこととして考えることができた。(40代女性)
- 私の長女の目標である声優になることという夢が、この体験を通じて少し理解できた。(50代男性)
- この体験を通じて、自分を見つめ直し、これからの人生を考えてみたい。(50代女性)
- 演劇は本当に自分を発見させる力があると思っていたが、それがこの体験を通してよくわかった。(20代女性)
- 参加者人数が丁度よかったので、自分も参加して、相手の活動や演技を十分に見ることができた。(30代女性)
- 「街づくり」のコーディネーターとして地域で活動しているので、今回体験した手法を活かしてみたいと思う。(70代男性)
- 相手の気持ちを感じることで、それが演劇の基本であることを再確認することができた。(40代女性)
- 横内先生は、わかりやすくスタッフの皆さんも生き生きとしていた。また、受けての我々も真剣に受け止め貴重な時間でした。(50代女性)

### 【「どちらともいえない」主な理由】

- 楽しかったけれど、ちょっと中途半端な気がした。(50代女性)

#### (4) その他の主な意見・感想

- ワークショップで何をすべきか、参加者の引き出しを開ける、引き出しを見つけることをもっと勉強したいと思った。
- 高齢者劇団ができればおもしろい。
- 私は日々、ことばで表現することがとても大切だと思って生活している。「ことばでいわなくてもわかる」という考えとは逆で、言わないと伝わらないと思う。そのことを再認識できる台本でした。
- いつかは芝居をやってみたい。
- メールでのやりとりが今回の体験で心配になった。やはり人との会話が大切である。
- 少しディスカッションする場も、もってもらえたら良かった。
- はじめて演劇を通して、コミュニケーションの勉強ができたことは大変意義深かった。
- 今回は見学でしたので体験ができず残念であったが、客観的に参加者の表現を見ることで、自己を顧みることができる機会となった。
- 教育現場に演劇が必要である。今回の教育イベントのような催しを、継続的に行ってほしいと思う。
- 感じることをテーマとして行っていくことは大切であると思う。
- 自分の感情に向き合う演劇は、今の時代が抱える問題の解決になる部分がいっぱいある。ぜひ演劇の場を増やしてほしい。特に子どもたちにその機会と場を。
- 自分のことを相手に伝えることの難しさを痛感した
- 横内先生に今後も定期的に指導願いたい。劇団の発足の話もあったので、ぜひ具体的に進めてほしいと思う。
- 人間として、表現する可能性を信じて、自分の好きなことに精進したい。

## 第2回かながわ人づくりフォーラム・ワークショップ（3月19日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：22）

（1）アンケート提出者の性別 （人）

男性	14	22
女性	8	

（2）アンケート提出者の年代 （人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	1	4	2	3	1	2	1	14
女性	0	1	2	2	3	0	0	8

（3）本日の参加グループ

（アンケート回収 22 名の内訳）

グループ	ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C	計
男性	2	3	9	14
女性	1	4	3	8
合計	3	7	12	22

（4）本日のワークショップの内容はいかがでしたか （人）

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	9	5	0
女性	5	3	0
合計	14 (64%)	8 (36%)	0 (0%)

### 【「よかった」主な理由】

- 年齢も性別も職業も様々な方々と話し合える貴重な時間であった。(10代男性)
- 前回と比べてディスカッションの時間が確保できていた。(30代男性、30代女性)
- 色々な意見が出され大変勉強になった。(30代男性)
- 現役の教員と元教員、また普段話をする機会のないお父さんたちが参加して意見を聞くことができた。(40代女性)
- 学校がいま抱えている課題策の現状を理解することができて良かった。(20代女性)
- 様々な世代での交流機会なので発見が多い。(20代男性)

### 【「どちらともいえない」主な理由】

- 議論の時間が不足していると感じ、消化不良であった。(60代男性)
- コミュニティづくりの大きさの違いを感じ、もう少し小さいテーマでの議論が行われると良かった。(50代女性)
- いい意見がたくさん出されたが「話」で終わってしまいもったいないと思った。(30代女性)

(5) ワークショップでの議論を通じて興味・関心が持てた意見やアイデア

- 教員の悪い所を改善できるシステムが構築されるとよいと思う。
- 塾と学校との対比について興味を持った。
- 学校の中での教員のコミュニケーションや授業のやり方を評価し合うシステムが必要であると感じた。ほめて伸ばすことは教員にも子どもにも双方に必要であると思う。
- これからは開かれた学校を目指し、ハード面のみでなく、ソフト面でも色々考えていかなければならない。
- 発達障害という言葉で片付けられてしまっていることが多くなっているような気がしたので、改めて勉強していきたい。
- 「特色とマッチングの連携」。小学校レベルで特色が必要かどうか考えたが、教員の資質を考えるマッチングはとても有益だと思った。
- 学校だけでなく、同じような取組をしている社協やボランティアセンターとも協働すれば、よりよい街づくりになるのではないか。
- 若者と大人が本音で話し合う場づくりが大切である。
- 子ども、若者、親へのキャリア教育と意識改革の必要性。
- 親同士で話し合う場面づくりが必要である。

(6) ワークショップに参加しての気づきや発見

- 色々な意見や考えを聞くことができ、教員採用試験など今後役に立つと思った。
- 多くの方が「教師にゆとりがない」と考えていることがわかり、驚いた。
- 自分自身の仕事に関してヒントを色々といただけで良かった。
- 教師ががんばって、よくやっていると思っている面が、逆に学校の悪い面になっている。教師は熱心に研究しているようであるが、それが還元されていないのではないかと。教師と外部の意識が逆と感じた。
- 教育現場の教師の立場について理解できたこと。
- 今回初参加であったが、もう少し事前資料があれば、より活発な議論ができたかなと思った。
- ワークショップCの「生涯にわたっての自分づくり」に参加したが、行政のできることの意見より、自分自身に対する興味・関心が強いことがよく分かった。
- 議論の中で、色々な考え方や見方があることに気づいた。
- 子どもたちが受けているキャリア教育の中身が知りたいと思った。
- 若者へどんなメッセージを送り続けるかが、大人の責任であり、支援者、教育者の仕事であると感じた。
- 親自身の学びの大切さを痛感した。

(7) ワークショップで話題にしてほしいテーマ

- 特別支援教育について
- 家庭で親はどうしたらよいのか
- 学校教育での教師の成功例やうまくいっている取組事例の紹介
- 小学校での性教育の内容
- 子どもたちの体力低下について
- 家庭と学校との役割
- 働く、生きるというテーマで異年齢で思いを出しあう場づくり

### 第3回かながわ人づくりフォーラム・ワークショップA・C（4月22日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：13）

（1）アンケート提出者の性別 （人）

男性	1 2	1 3
女性	1	

（2）アンケート提出者の年代 （人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	0	1	1	5	4	1	0	1 2
女性	0	0	0	1	0	0	0	1

（3）本日の参加グループ

（アンケート回収 23 名の内訳）

グループ	ワークショップ A	ワークショップ C	計
男性	4	8	1 2
女性	0	1	1
合計	4	9	1 3

（4）本日のワークショップの内容はいかがでしたか （人）

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	1 1	1	0
女性	0	1	0
合計	1 1 (85%)	2 (15%)	0 (0%)

#### 【「よかった」主な理由】

- 色々な世代の人の素直な意見が聞けた。(40代男性)
- 家庭教育に関する情報共有（課題、対策の方向性）ができた。(20代男性)
- 時間に追われたが、具体的な項目になると活発な意見交換ができた。(60代男性)
- 合同ワークショップでは有意義な事例発表があった。(40代男性)
- 合同ワークショップでの事例がたいへん参考になった。(50代男性)

#### 【「どちらともいえない」主な理由】

- 今回初めての参加であるが、十分に話し合い、参加者同士の質疑応答の時間がなかった。(40代女性)
- 合同ワークショップがほとんど表面的なものであり、課題別ワークショップCの方はいつもながら時間が足りなかった。(50代男性)

(5) ワークショップでの議論を通じて興味・関心が持てた意見やアイデア

- 子育ての悩みが意外に深刻であり、幼児期の子育ての重要性を感じた。
- 他の自治体のケース。
- 合同ワークショップでの実践報告。
- コミュニティでの取組。

(6) ワークショップに参加しての気づきや発見

- 子育ての楽しさ・難しさ。
- 突き詰めていくと、社会の構造や人間の生き方など、社会の本質論となってしまう。
- 合同ワークショップでの事例報告は参考になった。
- 新しい人が入ると議論が振り出しに戻ることが多々ある。
- 自分づくりということは自分のためだけにあるのではなく、地域のためと自分を生かすと言うことになるのか。
- 自分づくりを応援するための大切さ。
- 地域の課題を子どもたちと共有する姿勢が地域の主体性としてあるといい。
- そこまでの力を子どもたちに育てるのは学校の仕事（地域の協力を得て）だと思う。
- 時間が少ないと感じた。

(7) ワークショップで話題にしてほしいテーマ

- 教育色が強いワークショップではあるが、できれば教育と離れた話題をテーマにしてほしいと思う。
- 地域・学校の協働を生涯学習の観点で行政がコーディネートする。

かながわ人づくりフォーラム・教育イベント  
うみんちゅまる  
 『海人丸 移動環境教室 ～オーシャン・アスリート荒木汰久治さんと考える  
 海や自然とのふれあいを通して身につける「人間力」～』（5月3日）

【「海人丸 移動環境教室」の参加体験者による主な意見】

(1) アンケート提出者の性別 (人)

男性	5	14
女性	9	

(2) アンケート提出者の年代 (人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	0	1	0	3	1	0	0	5
女性	0	0	5	3	1	0	0	9

(3) 本日のワークショップの内容はいかがでしたか (人)

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	5	0	0
女性	7	2	0
合計	12 (86%)	2 (14%)	0 (0%)

**1 自然とふれあう体験を通して見た子どもたちの様子は？**

- まず少し理解するには早かったかなと思ったけれど、海という大自然で素晴らしいお話を聞き、体験ができて良かったと思う。(30代女性)
- いつもと変わらない様子であったが、心から楽しそうな様子が見られた。(40代男性)
- 本能的に子どもというのは自然の中で生きていこうとする力を備えているのではないか。そもそも、子どもは自然の中で遊ぶことによって危険を回避する能力を身に付けるはずである。大人が危険と見なし、みんな排除しているのではないか。(30代女性)
- 真剣に荒木さんの話を聞き、的を得た質問(船上での食事の取り方)をしている子どもの姿におどろき、たのもしくも感じた。(30代女性)
- 海人丸に乗船した時の息子の笑顔が印象的でした。海を風を切って走る海人丸を体感することができ、ほんの少しですが、「人間力」を感じ取ることが出来たのではないのでしょうか。(40代女性)

## 2 自然を前にしたときに思った私たち人間の力は？

- 自然の中で生かされていることを実感した。また、人間の非力さも痛感した（40代女性）
- 無力であっても、自然の力を利用する力や知恵はあるはず。（30代女性）
- ただただ1個の存在でしかないと思った。はかなく強い生き物でありたいと思う（30代女性）
- 人間だって自然の一部。人間の力が自然の力に及ぶはずがない。（30代女性）
- 小さな世界であり、大自然の前では反省することが多い。（40代女性）

## 3 今日の体験から言える、学ぶということの意味は？

- 生きていく力になるということ（30代女性）
- 自然の仕組みを知ることが生きる力を身につけるということ。（30代女性）
- 学ぶ側の姿勢によって学ぶものが変わってくるので、その意味も人によって違うのではないのでしょうか。（40代男性）
- 感じること、おどろくことから始まると思った。（30代女性）
- 知識を生かすためにも社会体験、自然体験が重要。（50代女性）
- 荒木さんの言葉「生きるために算数も理科も勉強する」という説明に親子共々深く共感した。まさに学ぶことの本来の目的と思った。（40代女性）

## 4 その他考えたこと？

- 息子と今日の体験をよくかみしめて話し合いたいと思う。そして息子の「人間力」を信じたい。（40代女性）
- あいさつをこまめにしていこうと思った。（50代女性）
- 普段命がけで何かをやるとか、一歩間違えると命を失う危険があるということはあまりないが、やはり人間としての本来の力をつけるには、自然に向き合うというか、自然に挑戦することが必要であると感じた。親として、子どもたちに自然のすごさを伝える体験をさせなくてはいけないと思った（40代男性）
- 教育する立場にいるが、正直この頃「教育」に疲れていたが、今日の話や体験を通して、教える、学ぶことの新鮮な側面を体感でき、新たな気持ちで仕事をしていきたいと思った。（30代女性）
- 皆さんの意見を聞いて感じたのは、子どもたちにはとにかく実体験が必要であること。勉強というのは現代において、とにかく教科書に出てくること、テストに出る問題を解くということ。英語を必修科目にする問題も、それが必要だと思わなければ、人間、身に付かない。色々な体験や経験をしてみて、初めて自分はこれが好きだ、これが学びたい、これが必要だと思うことからはじめなければならないと思う。（30代女性）

### 第3回かながわ人づくりフォーラム・ワークショップB（5月3日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：14）

(1) アンケート提出者の性別 (人)

男性	5	14
女性	9	

(2) アンケート提出者の年代 (人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	0	1	0	3	1	0	0	5
女性	0	0	5	3	1	0	0	9

(3) 本日のワークショップの内容はいかがでしたか (人)

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	5	0	0
女性	7	2	0
合計	12 (86%)	2 (14%)	0 (0%)

#### 【「よかった」主な理由】

- 色々な方々の経験や思いを聞くことができ、議論の深まりを感じた。(20代男性)
- ワークショップでの議論を通じて、他の地域での取組の様子や好例が理解できてよかった。(50代女性)
- 毎回参加しているが、回を重ねるごとに深い議論ができていると感じる。(40代男性)
- とても有意義な企画とプログラムで親子共に楽しめ、感動でき、そして考えさせられる体験でした(40代女性)
- 教育イベント、そしてワークショップでの荒木さんの話がとても心に響いた。(30代女性)

#### 【「どちらともいえない」主な理由】

- 教育イベントでの荒木さんの話からも、生きる力ということが、如何に生きていく上で必要なことかを実感できた。(30代女性)
- 参加者から色々な話が聞けたが、それが今後どう反映されていくのかということ考えた。(30代女性)

(4) その他の主な意見・感想

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広い意味での市民教育（消費者教育や政治教養、マナー教育など）をより強く位置づけていくべきではないか。</li> <li>○ すべてつくられたものの中で生活している今の世の中に危惧を抱く。セッティングされた中で決まったことをしている子どもたちが心配である。</li> <li>○ 現場の先生方の意見をもっとたくさん聞きたいと思う。</li> </ul> |
|--|

## かながわ人づくりフォーラム・教育イベント

『弘道おにいさんと親子体操で子育てを考えよう』（5月27日）

### 1 アンケートの回収状況について

○アンケート回収 221 枚／（配付数 225 枚）[回収率 98.2%]

○アンケート回答者 男性：46 人 [20.8%]

女性：175 人 [79.2%]

	20代	30代	40代	50代以上	合計
男性	4 [ 1.8%]	32 [14.4%]	9 [ 4.0%]	1 [0.4%]	46
女性	14 [ 6.3%]	137 [62.0%]	22 [10.0%]	2 [0.9%]	175

### ○教育イベントの内容について

- ・よかった : 215 人 [97.3%]
- ・どちらともいえない : 4 人 [ 1.8%] (男性4人)
- ・よくなかった : 0 人 [ 0 %]
- ・無回答 : 2 人 [ 0.9%]

#### ◆「よかった」主な理由

- ・(教育イベントが) 子供と触れあう機会となった。(20代男性)
- ・日頃、仕事からなかなか会えず、二人になることはなかったから、初めてと言っていいほど子供の笑顔が見られたから。(30代男性)
- ・親子一緒に体を使っていっぱいふれあえた。(20代女性)
- ・子どもとのふれあいだけでなく、同じ年頃の子どもたち(知らない子どもたち)ともふれあえたのでよかった。(30代女性)
- ・すごい混雑を予想していたが、後ろの方からお兄さんが見えて楽しく体操ができた。(30代女性)
- ・子どもがどんどんノリノリになっていくのがみられとても楽しかったです。(30代女性)
- ・弘道おにいさんの軽妙なトークに子どもも引き込まれ楽しく体操できました。(30代女性)
- ・子どももすごく楽しんでた。私もいつも遊んであげれば良かったと反省。(30代女性)

#### ◆「どちらでもない」主な理由

- ・体操のみでこちら(参加者)からの話を聞いてもらえなかった。(30代男性)
- ・短時間で多くの体操を行うため、説明に時間を掛けられず分からないことがあった。(30代男性)
- ・5歳の子には、もう少し運動させたかった。(30代男性)
- ・子供の目線だと、おにいさんが見えない。(40代男性)

## 2 教育イベントのふりかえりについて

### ○「親子体操でのふれあいを通して、子どもから感じたり、発見したことは？」について、主な回答内容

- ・遊びを通していろいろな感覚を学べることを感じた。(30代男性)
- ・もっと体を使った遊びをしたと思いました。(30代男性)
- ・子供も親とのふれあいを求めているのだと感じました。また、親が子供と向き合い接することで子供も応えてくれると思います。(40代男性)
- ・体をつかった遊びは、子供が心から喜ぶのが感じられ良かった。(20代女性)
- ・スキンシップの大切さを感じました。一緒に体を動かして遊ぶと子供がすごくうれしそうでした。(20代女性)
- ・「この動きはまだ無理かな？」と思っていたことができ、子供の成長にびっくり。(30代女性)
- ・親の体力が続かなくて大変(30代女性)
- ・子供はお兄さんの言葉かけに目を輝かせ夢中になって自然に体が動いていたこと。こちらの言葉かけ一つで楽しんで動けることに気づいた。(30代女性)
- ・予想外に子供は観察力があり、体操がでるとびっくりした。親が出来ないものと勝手に決めつけてはいけないと思いました。(30代女性)
- ・体操と構えず、普段の生活の中で“あそび”として、毎日行えばいいのだと実感しました。(40代女性)

## 3 日頃の子育てについて

### ○「子育てについて喜びを感じることや、楽しいこと？」について、主な回答内容

- ・子供の笑顔
- ・親が教えていないことを自主的にした時に成長を感じた時。(30代男性)
- ・優しい言葉を言えるようになり、お友達と仲良く遊んでいるのを見ると成長を微笑ましく見守れます。(30代女性)
- ・自分で難しいこともあきらめずにチャレンジしているのを見た時。(30代女性)
- ・大人と全く違う考え方や感想を聞いた時。(30代女性)
- ・一緒になってゲラゲラ笑い合える時(いつも怒ってばかりなので)。(30代女性)
- ・怒ることもたくさんあるけど、精神的に子供がいることで、救われる面もたくさんある子供から学ぶものもあり、毎日が楽しいです。(30代女性)
- ・何気ない会話の中で「お母さんありがとうね」と言われることがあり、ドキッとします。(30代女性)
- ・子供の視点ならではのいろいろな気づきを教えてくれること。親が教育されます。(30代女性)
- ・反応のすばらしさ(50代女性)

### ○「子育てについて困ったことや、大変なことは？」について、主な回答内容

- ・仕事で帰る時間が遅く、子供とふれあえる時間がない。(20代男性)
- ・教育、しつけ、体罰などをどこまですべきかいつも悩みます。(30代男性)
- ・特にないが、(下の子もいるので)自分一人の時間がつくれない。(30代女性)
- ・私が病気などの時、助けてくれる人がすぐ(周り)にいないこと。(30代女性)
- ・親が感情的に怒って言った言葉を覚えていて、子供がそれを使っている時、また、それを叱っている時。(30代女性)
- ・お金がかかるのが大変、だけど外へ働きに行くと子供と過ごす時間がなくなり、お互いの

成長によくない気がする。幼稚園が高すぎる。(30代女性)

- ・父親との意見の違い。(30代女性)
- ・パパの仕事が午後から夜中まで。子供と会う時間がほとんどなく、子育てはママ一人大変です。(30代女性)
- ・嫌な事件があり、安心して子供だけで遊ばせることができない。(30代女性)
- ・公共施設・場所を利用する際の親子に対する大人(中年男性や子育てをしていない世代の女性)の厳しい視線。(30代女性)
- ・食育と言われていますが、偏食が多いこと。(40代女性)
- ・生活リズムが夜型で早く寝てくれないこと。(40代女性)

#### ○「子育てについて何かして欲しいことや、実現して欲しいこと？」について、主な回答内容

- ・公園や遊び場、教育環境の充実、安全・安心な公共施設の充実
- ・このようなイベントの充実
- ・上手にしつけの話を教えていただけるとうれしいです。(30代男性)
- ・企業や社会が男性の育児参加、育休などを容認してくれるようになって欲しい。(30代男性)
- ・働いているので、地域が共に協力していけることをして欲しい。(30代女性)
- ・地域の子育ての会はありますが、もっと気軽に立ち寄れる施設が歩いていける距離に出来るといいと思います。(30代女性)
- ・地域の自主サークルや、病児のサークルに入っていますが、最近は参加人数も少なく財政も厳しい状況が続いています。こういうサークルへの支援をもっと増やして頂けると嬉しいです。(30代女性)
- ・父親が会社から早く帰るような社会にして欲しい。(30代女性)
- ・一緒に子育てを考えるイベントや子育てサロンが増えるのは心強いけれど、絶対に勘違いする人も出てくると思う。母親や父親の育児力が育つ事はもちろんだが、過剰な支援は良くないと思います。皆がたくさん産めればよいのに。(30代女性)
- ・地域で子供達を見守れることの大切さをみんなが学ぶ機会があれば良いなと思います。(30代女性)
- ・地域の方々とのコミュニケーション。子供の目線で話ができたらと思う。(40代女性)

#### 4 その他

- ・私自身もスポーツ指導で地域を廻っていますが、幼年期から子供の体の興味を持たせることが、これからは重要と思われるので、今後も今回のような企画をお願いします。(40代男性)
- ・現場の様子をもう少し事前に知りたかった。(30代女性)
- ・親子イベントは、託児サービスが必要。(30代女性)
- ・父親と娘のふれあいができるイベントをたくさんやって欲しいです。(30代女性)
- ・お友達もできて良かった。(30代女性)
- ・このイベントの前に弘道おにいさんの本「子どもはぜんぜん悪くない」を読み、自分の子どもに対する言葉や態度を考えさせられました。(30代女性)
- ・子育てではありませんが、私の住む西湘地区、特に足柄上郡はまず産科が近くほとんどないのがとても不安です。この子も早産で東京に運ばれ、生まれました。子育てに渡るお金を、まず産科に回していただきたい。(40代女性)

かながわ人づくりフォーラム・ワークショップA（第5回）、B・C（第4回）（6月3日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：21）

(1) アンケート提出者の性別 (人)

男性	14	21
女性	7	

(2) アンケート提出者の年代 (人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	1	0	1	9	1	1	1	14
女性	0	1	3	2	1	0	0	7

(3) 本日の参加グループ

(アンケート回収 23 名の内訳)

グループ	ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C	計
男性	4	8	2	14
女性	4	2	1	7
合計	8	10	3	21

(4) 本日のワークショップの内容はいかがでしたか (人)

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	13	1	0
女性	7	0	0
合計	20 (95%)	1 (5%)	0 (0%)

【「よかった」主な理由】

(B・C合同ワークショップ)

- キャリア教育について宮城先生等から貴重な話をうかがうことができた。(50代男性、C参加者)
- 基調提案と実践とが上手くリンクしていてとても理解しやすい工夫がなされていた。(40代男性、B参加者)
- キャリア教育の視点が明確になった。(40代男性、B参加者)

(課題別ワークショップ)

- ロールプレイはとても参考になった。武藤先生の説明が簡潔でわかりやすかった。(40代男性、A参加者)
- 気づくものがあったので、参加して良かった。(40代男性、A参加者)
- 同じ悩みを持つ親として、改めて確認できた。保護者同士の連携は絶対必要である。(40代女性、A参加者)
- 意見の整理の方法が良く、全員の意見を集める有効な方法であった。(40代男性、B参加者)
- 意見を最大限に参加者が発表できる形態の進行が良かった。(40代男性、B参加者)
- 県民の多様な声を聴くことができた。(30代男性、C参加者)
- 専門外の知識を多く得ることができた。(30代女性、C参加者)

【「どちらともいえない」主な理由】

- (理由の記載なし) (40代男性、B参加者)

(5) ワークショップでの議論を通じて興味・関心を持った意見やアイデア

- キャリア教育のさらなる高まりと深まり。
- フィッシュ・ボーンにより、各班のイメージがとても良くまとめられていた。
- ロールプレイングでの演習が非常に参考になった。
- 親子・地域・安全などについて話し合う場をつくること(話しやすい、参加しやすい場)。
- 教師と保護者や、地域との連携が大切である。
- カリキュラム内(小・中・高)に配置されているキャリア教育の部分を、一つの体系図としてまとめてみると、学校の先生方も意識を持って取り組めるのではないか。
- 配布されたキャリア教育のハンドブックはよくできていて、もっと広め、活用すべきではないでしょうか。
- 教員の研修を行うことについての意見が多かったのが印象的であった。
- 合同ワークショップでの「GESTOREおだわら」について知ることができたのが良く、非常に素晴らしい取組だと思う。

(6) ワークショップに参加しての気づきや発見

- 自分の発想にない提案(子どもたちへの高齢者施設の開放など)を伺え、新鮮であった。
- フィッシュ・ボーンの手法は今回の話し合いに有効であった。
- ロールプレイングでは、頭でわかっているつもりでも、実際にやってみると、役の中でその役の人の気持ちが自分の中にわき起こることが体験でき、自分でも不思議な感動を受けた。
- ロールプレイングでの三者関係の外に、傍聴者という立場を無関心とは別の意味で考えられたことが良かった。
- ロールプレイングを体験して、明日からの自分の生活、地域が身近で豊かなものになった。
- キャリア教育に対しては、無意識に(本能的に)自分の生き方を組み立てていたが、今後は、理論的に考えて組み立てる方法を学んでいきたい。
- 「特別な取組をしなくてはできない」という感覚から、「ふつうの教育の流れの中で取り組める」という感覚に流れを変えていくことで、キャリア教育がより推進されていくのではないかと思った。
- 教員研修の改善を求める意見が多いことに驚いた。

(7) ワークショップで話題にしてほしいテーマ

- 安全教育など他者への寛容とともに、自らの身の安全の確保について。
- 難しいクラスの子どものかかわり方の相談。
- 何事も経験してみても初めてわかることなので、色々な体験や現場の話を聞くということが大切なことから、親も子どもに仕事の話聞かせるなどの取組について。

## かながわ人づくりフォーラム・教育イベント

高校生と考える教育ビジョン『かかわる楽しさ、伝え合う心』（6月17日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：57）

(1) アンケート提出者の性別 (人)

男性	16	57
女性	41	

(2) 本日のワークショップの内容はいかがでしたか (人)

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
男性	15	1	0
女性	32	9	0
合計	47 (82%)	10 (18%)	0 (0%)

### 【「よかった」主な理由】

- 自分が興味をもっている演劇をすることができた。
- 演劇という、普段あまり体験できない世界に触れられた。
  - 演劇は観ている立場だったが、実際にやってみるとということがとても貴重な体験になった。
- 自分と性格等が違う人と触れあうことができてよかった。
- 自分以外の高校生の意見を聞くことで、今までの自分の考えや、これからのことについて、改めて考える機会となった。これからも、もっとやって欲しい。
- 同年代の人たちの意見と、教育委員の考えが聞けてよかった。
- 一言で言い切れないが、思っていたより楽しかった。
- こういう会をいろいろな所で開くことが、人づくりにつながると思う。

### 【「どちらともいえない」主な理由】

- 最初の方は、少しついていけない部分があったから。
- 前半は楽しかったが、後半は話が難しかったから。
- 大人の意見と高校生の意見を交換して、伝え合うことはできたけれど、これから先どうなるかは全く見えなかったから。
- (自分の参加姿勢が) あまり積極的ではなかったから。

### 教育イベントについてふりかえり

①演劇ワークショップでの体験活動等を通して、感じたり、発見したことは。

- 人間の多様さ、個性の強さ。
- 日常縁のない「演劇」の世界は、とても新鮮だった。相手の台詞(話)をよく聞くという芝居の極意は、日常生活の基本であって、しかし、なかなか難しいことだと改めて感じた。「相手の目を見て話しているか」「相手のサインを見逃していないか」気持ちの送受信をもっと大切にしたい。
- ワークショップは面白かったし、表現の仕方等を学べたのはよかったが、後半の論議との関連性があまりなかった。展開に無理があったのでは。

②同世代の仲間や教育委員との意見交換を通して、思ったり、考えたりしたことは。

- いろいろな意見を聞けて、学校生活の参考になった。同じ高校生でも少し生活環境が違

- うだけで、こんなにも違う物事のとらえ方ができるんだと思った。
- 今回のイベント参加者の中にも、社会との関連に於いて、社会や他人に対しての批判や依存は強いが、自己に対する反省や自主自律ということに対しては、意識が低いという感じがした。
  - 素晴らしい意見が多かったが、将来の日本を悲観している人が多く、少し淋しかった。私は、自分達で日本を良くするべきだと思う。
  - 今回の論議の中で「困った先生」の話題がいくつかあった。私もこれまで先生の授業、指導に疑問を持つこともあった。でも同世代の子の話聞くうち、先生を非難するよりも、まずは自分のとりくむ姿勢を見直してみようと思えるようになった。
  - 「どんな先生が良い先生か」という問いには、とても考えさせられた。自分としては、生徒とコミュニケーションがとれる先生がよいと思っていたが、「人によって良い先生の条件は違う」との意見を聞いて、確かにそうだった。
  - 教育委員の方々が、私達のことを本当に考えてくれているのだなと、ありがたく思った。
  - 大人の目に今の高校生がどのように映っているのか知らなかったし、理想の大人像について真剣に語る機会もなかったのも、とても興味深く面白かった。こうした意見交換を通して、コミュニケーションを図ることは、地域社会に目を向ける良い機会になると思う。

#### 未来を豊かなものにしていくために、今後どのような力を身につけていきたいと思いますか。

- 互いを尊重しあい、思いやりをもって高め合っていくこと。
- 自分の信念を持ち、それを貫く精神力。
- 自分の意志を持ち、他人にはっきりと話す能力。
- 相手と正面から向き合えるようなコミュニケーション力。
- 読解力、言葉を大切にする力。
- 意見交換をすることで、周りの人がどう思っているかを理解し、それに対し自分がどう思うかを伝えられる力。
- 冷静に客観的に物事が見られて、判断する力。
- いつも誰かに頼るのではなく、責任を誰かに押しつけることもせず、「ひとりで生きていく力」を身に付けていきたいと思う。

#### その他、自由意見

- ワークショップのゲームで、友達ができたのが嬉しかった。またやってみたい。
- 仲間の新しい一面を見ることが出来たのが、良かった。
- 演劇ワークショップは短時間だったが、本当に楽しめて、みんなと交流ができてよかった。この体験があったから、後半の論議もリラックスして臨めた。
- 目線の違う大人の方々の考え方や、同年代の人たちの意見を聞き、自分の考えも少し変わった。いろいろと考えさせられた今回のワークショップや議論は、心にずっと重く残ると思う。
- 教育論議も教育を考える上で役立つとは思いますが、実際には普通の学校の様子を見て感じる事が一番なのではないかと思う。
- 先生を採用するときに、「先生一人ひとりの重要性」を意識させて欲しい。理由は、一人の先生をきっかけに学校全体が良くなることも、悪くなることもあるから。「学校は生徒自ら変えるものだ」という方もいるが、生徒にはその学校に対する一定の概念をもって入学するため、それはとても大変なことだ。私たち生徒は先生からの「キッカケ」を求めている。公立・私立関係なく、同じ神奈川県で学ぶ高校生の交流の場として、このような場をこれからも企画していただきたい。

かながわ人づくりフォーラム・ワークショップA・B・C（最終回）（7月1日）

【参考】 提出されたアンケートのまとめ （回収数：10）

（1）アンケート提出者の性別 （人）

男性	8	10
女性	2	

（2）アンケート提出者の年代 （人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	0	1	4	1	1	0	1	8
女性	0	0	1	1	0	0	0	2

（3）本日の参加グループ

（アンケート回収 10 名の内訳）

グループ	ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C	計
男性	0	6	2	8
女性	0	2	0	2
合計	0	8	2	10

（4）本日のワークショップの内容はいかがでしたか （人）

	よかった	どちらともいえない	よくなかった	無回答
男性	5	2	0	1
女性	2	0	0	0
合計	7 (70%)	2 (20%)	0 (0%)	1 (10%)

【「よかった」主な理由】

- 問題の整理が明快だった。(70代以上男性)
- これから何をどうしなければいけないか、方向性がわかった気がする(30代男性)
- 多くの人の「生の声」に接することのできる、貴重な機会であった。(20代男性)
- 最後のとりまとめの場として非常に有意義だった。(50代男性)
- これまでの議論の進め方について、全体場で話し合えてよかった。(40代女性)

【「どちらともいえない」主な理由】

- 初参加のため、前までの流れがわからず、流れに乗り切れなかった。(30代男性)
- 初めてのため、よくわからなかった。(30代男性)

(5) ワークショップでの議論を通じて興味・関心が持てた意見やアイデア

- あらゆる意見が出ているので、本質を見失わないようにしたい。
- ある母親の「学校からのちょっとしたサポートで、親にも自信をもたせてほしい」という意見が心に残った。
- キャリア教育支援センター。
- 学校に期待する(肯定的にも批判的にも)意見が多いことを痛感した。
- ワークショップA・B・Cのテーマは違っても、これからやらなければならないことの基本は、地域のつながり、異世代間の交流なのではないだろうか。
- 教育の多忙化の緩和、教育の質の向上のために、地域の人が学校に入り込めないかという提案。
- 付箋紙を活用した議論の方法。

(6) ワークショップに参加しての気づきや発見

- 教師の世界は一つの集落を形成しているような気がする。まず教師が常識人として柔軟な態度をとる必要がある。
- 皆から出た意見は妥当なものが多い。それをどう実践していくかが大事と思った。
- 「知識」がなくても、考える機会を持つことにより、関心が広まるのだということが確認できた。
- 地域・家庭・学校の連携。
- リーダーの不在。
- 学校の風通しとともに家庭の風通しも良くするべき。
- 県そのものが学校になるという考え方。
- 参加者の年齢層が厚く、若い人の意見、ベテランの人の意見があり、学ぶべきところがあった。

(7) 前回までを含む全体を通じて、ワークショップに参加しての意見や感想

- 問題を絞って検討したい場合には突っ込み不足になる。重要なテーマについては掘り下げに留意する必要がある。
- ぜひこれからもこのような話し合いの場を設けてほしい。私も参加させてほしい。
- 公募委員として参加したことは有意義であった。
- 議論されたことが県行政にしっかり活かされるようにしてもらいたい。
- 一人一人が自分のことだけでなく、他人のことも考えられれば(思いやり)よいと思う。今は大人自身が自覚していないが、社会の一員であるという自覚が大切であり、子どもたちに伝えなければならない。
- 倫理感、正義感の教育が大切。大人が見本になっていない。連日テレビで報道されるのは、これらの欠如した大人ばかりで、拝金主義的な内容ばかり。テレビ番組の内容の見直しも必要ではないか。見本となるべき活動や人物をもっと紹介してほしい。

(8) 第2回かながわ人づくりフォーラム(8月26日)に参加のご予定はありますか。

	ある	ない	無回答
男性	4	3	1
女性	1	1	0
合計	5 (50%)	4 (40%)	1 (10%)

### Ⅲ かながわの教育ビジョンづくりに関する報道実績等

NO	年月日	媒体名等	内容	見出し等
1	17. 11. 1	神奈川新聞	県民の窓「かながわ人づくりフォーラム」参加者募集	教育論議にご参加を！
2	17. 11. 6	神奈川新聞	かながわ人づくりフォーラム 実施結果	「人づくり宣言」発表 県教委がフォーラム教育ビジョンで討論
3	17. 11. 19	神奈川新聞	社説「県教育ビジョン」	「人間力」について語ろう
4	17. 11. 23	神奈川新聞	県民の窓「ワークショップ公募委員募集」	未来の人づくりに参画を！
5	18. 1. 26	神奈川新聞	県民の窓「ワークショップ(2/11)参加者募集」	ワークショップで教育論議 教育ビジョンづくりに向けて、テーマ別に論議を深めるワークショップがはじまります。
6	18. 2. 9	神奈川新聞	県民の窓「演劇ワークショップ参加者募集」	新たな自分づくりに向けて
7	18. 2. 21	読売新聞	横内謙介演劇ワークショップ参加者募集	演劇体験の参加者募集 県教委「自分づくり」テーマに
8	18. 2. 24	ミニコミ紙「ぱど」	横内謙介演劇ワークショップ参加者募集	劇団扉座主宰横内謙介さんと一緒に充実した毎日を送るために必要なものを考えてみませんか？
9	18. 2. 28	読売新聞	教育に関する学校関係者向け意識調査	中高生半数将来に悲観的 教員と保護者 意識ズレも
10	18. 2. 28	神奈川新聞	かながわの教育ビジョンづくりの取組紹介	「一緒に考えてみませんか？ かながわの教育ビジョンづくり」
11	18. 3. 3	神奈川新聞	県民の窓「ワークショップ(3/19)参加者募集」	教育ビジョンで県民論議
12	18. 3. 6	TVK番組「ハマランチョ」	神奈川の教育ビジョン	神奈川の教育ビジョン 引地教育長出演 取組紹介
13	18. 3. 6	TVK番組「神奈川新聞ニュース縦横ななめ」	教育に関する学校関係者向け意識調査	教育に関する学校関係者向け意識調査紹介 神奈川新聞社 林編集委員兼論説委員
14	18. 3. 12	神奈川新聞	横内謙介演劇ワークショップ結果	新たな「私」演じて発見 横浜で体験的ワークショップ
15	18. 3. 13	神奈川新聞	社説「教育意識調査」	現場の課題解決に生かせ
16	18. 4. 5	神奈川新聞	県民の窓「荒木汰久治 海人丸 移動環境教室」参加者募集	海体験から考える人間力
17	18. 4. 11	神奈川新聞	県民の窓「佐藤弘道 親子体操で子育てを考えよう」参加者募集	親子体操で子育てを考えよう
18	18. 4. 24	東京新聞	かながわ人づくりフォーラム電子会議室	ネット会議「参加を」 登録者少なく 県教委が呼び掛け
19	18. 5. 4	神奈川新聞	荒木汰久治「海人丸 移動環境教室」実施結果	「人間力」育てよう 葉山で移動環境教室 マリンスポーツで世界的に活躍 荒木さん講師に
20	18. 5. 17	TVK番組「神奈川新聞ニュース縦横ななめ」	かながわ人づくりフォーラム電子会議室	かながわ人づくりフォーラム電子会議室紹介 神奈川新聞社 林編集委員兼論説委員
21	18. 5. 19	神奈川新聞	県民の窓「横内謙介 高校生と考える教育ビジョン」参加者募集	高校生と考える教育ビジョン
22	18. 5. 22	朝日新聞	電子会議室参加者募集	電子会議室参加者募集中 ネット会議で“熱い”教育論議を！
23	18. 5. 30	神奈川新聞	佐藤弘道「親子体操」実施結果	親子体操を通じ子育て
24	18. 6. 18	神奈川新聞	横内謙介「高校生と考える教育ビジョン」実施結果	高校生を対象に演劇ワークショップ／小田原
25	18. 6. 25	TVK番組「TRY！神奈川」	教育ビジョン策定に向けた取組の紹介	未来を拓く かながわの人づくり
26	18. 8. 1	県のたより	かながわの教育ビジョンづくりの取組紹介	ご参加ください！かながわの教育ビジョンづくり
27	18. 8. 9	神奈川新聞	かながわの教育ビジョンづくりの取組紹介(知事と教育委員と運営推進委員会の座談会記録)	座談会輝け！明日へ 神奈川の教育ビジョン策定に向けて
28	18. 8. 10	神奈川新聞	照明灯 教育ビジョン策定に向けた取組の紹介(人づくりフォーラム)	教育ビジョンの提言の取りまとめが大詰めを迎えている
29	18. 8. 15	神奈川新聞	第2回かながわ人づくりフォーラム開催の紹介	教育ビジョンの検討フォーラム 県教委、参加者募集

**A**  
「少子化時代に対応した家庭教育を支える環境づくり」

分類	氏名
運営推進委員	◎ 金子 佳代子
	◎ 當島 茂登
	◎ 入江 礼子
	佐藤 弘道
	陶山 寧子
公募委員	川島 澄玲
	松浦 幸恵
	岡本 桂子
	岸 保宏
	水野 明德
	古川 明
	杉並 伸也
	丸山 治章

**B**  
「学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる学校づくり」

分類	氏名
運営推進委員	◎ 千々布 敏弥
	◎ 高木 展郎
	◎ 鶴岡 貴美子
	荒木 汰久治
	鈴木 美喜
公募委員	林 義亮
	田中 佐季
	堀口 悟郎
	高橋 幸代
	後藤 智恵美
	中島 徳顕
	宮内 直樹
	木野 美穂
	小川 義一
	武井 勝
	中野 和巳
	高間 明浩
	高松 清美

**C**  
「生涯を通じた自分づくりを応援する環境づくり」

分類	氏名
運営推進委員	◎ 宮城 まり子
	◎ 佐藤 晴雄
	◎ 伊藤 昭彦
	太田 てる子
	田代 正樹
公募委員	横内 謙介
	富田 愛子
	工藤 智
	金 ミン志
	伊藤 継雄
	細田 均
	芹沢 秀行
	上田 敏和
	廣幡 清広
	中川 洋太
吉田 弘	

◎は、ファシリテーター（議論のとりまとめ者）

運営推進委員と、公募委員をはじめとして、延べ約1,688名の県民の皆さまにご参加いただきました。

かながわ人づくりフォーラム  
ワークショップ等実施結果報告書

発行 平成18年8月26日  
発行者 かながわ人づくりフォーラム運営推進委員会  
連絡先 (事務局) 神奈川県教育委員会教育局  
教育政策課企画班  
電話 045-210-8081 (直通)  
FAX 045-210-8921  
電子メール kh-forum@pref.kanagawa.jp